

官報號外

昭和十四年三月十八日

○第七十四回 貴族院議事速記録第二十四號

昭和十四年三月十七日(金曜日)午前十時十分開議

議事日程 第二十四號

昭和十四年三月十七日

午前十時開議

第一 昭和十四年度歳入歳出總豫算追加案(第一號) 會議(委員長報告)

第二 昭和十四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號) 會議(委員長報告)

第三 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號) 會議(委員長報告)

第四 輕金屬製造事業法案(政府提出、衆議院送付) 會議(委員長報告)

第五 昭和十三年法律第六十四號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第六 朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第七 昭和十三年法律第二十三號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第八 昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第九 大正九年法律第五十三號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十 帝國礦業開發株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十一 青年學校教育費國庫補助法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十二 昭和十三年法律第八十七號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十三 地方學事通則中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十四 青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十五 司法保護事業法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十六 國際電氣通信株式會社法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十七 船員保險法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十八 帝國礦業開發株式會社法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第十九 大正九年法律第五十三號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第二十 鑄業法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第二十一 青年學校教育費國庫補助法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第二十二 鐵道法中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第二十三 地方鐵道法中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第二十四 軌道法中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第二十五 明治四十五年法律第二十三號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第二十六 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財產ノ處分ニ關スル法律案成立ニ關スル請願外十件ノ請願ハ各、意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

第二十七 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十二年法律第八十四號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第二十八 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第二十九 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第八十七號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第六十四號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十一 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十二 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第二十三號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十三 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第八十七號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十四 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第六十四號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十五 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第八十七號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十六 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第六十四號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十七 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第八十七號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

第三十八 同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル昭和十三年法律第六十四號中改正法律案可決報告書(丸龜書記官朗讀) 第一讀會

明治二十五年三月三十日
第三種郵便物認可

職員健康保険法案特別委員會

委員長 男爵大森 佳一君

副委員長 男爵周布 兼道君

酪農業調整法案特別委員會

委員長 子爵米津 政賢君

副委員長 子爵實吉 純郎君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
北海道拓殖銀行法中改正法律案可決報告書

金資金特別會計法中改正法律案可決報告書

同日委員長ヨリ左ノ受領セリ
輕金屬製造事業法案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル法律案

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

地方學事通則中改正法律案

昭和十三年法律第二十三號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

○議長(伯爵松平頤壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、昭和十四年度歲入歲出總豫算追加案、第一號、日程第一、
案、特第一號、日程第三、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第
二號、會議、委員長報告、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ガゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頤壽君) 御異議ナイト認
メマス、委員長渡邊子爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタゞ茲ニ載錄ス以下ニ倣フ〕

一昭和十四年度歲入歲出總豫算追加案
(第一號)

一昭和十四年度各特別會計歲入歲出豫算
追加案(特第一號)

一豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲
スヲ要スル件(追第二號)

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總
議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十五日

委員長 子爵渡邊 千冬

貴族院議長伯爵松平頤壽殿

〔子爵渡邊千冬君演壇ニ登ル〕

○子爵渡邊千冬君 只今議題トナリマシタ
豫算案二件、豫算外契約一件ニ關スル委員
會ニ於ケル審査ノ經過並結果ヲ御報告申上
ゲマス、詳細ハ既ニ配付ニナリマシタ速記
錄ニ讓リマシテ、要點ノミヲ申上ゲタイト
存ジマス、本件ハ大體ニ於キマシテ曩ニ成
立致シマシタ臨時軍事費豫算追加臨第一號

ニ直接關聯ヲ有スルモノ、及び陸海軍ノ國防費ニ關スルモノデアリマス、昭和十四年
度歲入歲出總豫算追加第一號ハ歲入歲出共ニ九億千五十餘萬圓デアリマシテ、之ガ歲
入豫算ノ内譯ハ、普通歲入ニ於テ支那事變
特別稅法及臨時利得稅法ノ改正ニ依ル增加
等一億八千二百四十餘萬圓、公債金ニ於テ
滿洲事件公債及歲入補填公債合計七億一千
八百餘萬圓トナツテ居リマス、次ニ歲出豫算
中ノ主ナルモノハ、大藏省關係ニ於キマシ
テ支那事變特別稅法ノ改正ニ依リ増加スベ
キ租稅收入等ノ臨時軍事費特別會計ヘノ繰
入一億八千三百二十餘萬圓、支那事變特別
稅法等ノ改正ニ伴フ徵稅費、支那事變公債
其ノ他公債發行額增加ニ伴フ利子等、五千
五百七十餘萬圓、陸軍省關係ノ兵備改善ニ
要スル經費ノ增加四千七百五十萬餘圓、內
地航空防空兵力充備ニ要スル經費ノ增加七
千五百四十餘萬圓、在滿地上兵力ノ充實ニ
要スル經費二億八千九百二十餘萬圓、在滿
航空防空兵力充備ニ要スル經費七千九百八
十餘萬圓等、合計四億九千八百九十一萬餘
萬圓、水陸備費ノ追加六千九百九十一萬圓、
航空隊設備費ノ追加五千六百六十餘萬圓、
圓等、合計一億七千二百八十萬餘圓デアリ
マス、次ニ昭和十四年度各特別會計歲入歲
出豫算追加特第一號ハ、各地ニ於テ内地ニ
順應シテ行ハムトスル臨時の增稅等ニ依
ル歲入ノ增加及ビ之ニ伴フ徵稅費、臨時軍
事費特別會計ヘノ繰入增加並ニ陸海軍ノ作
業會計等ニ於ケル作業費增加ニ基クモノ等
デアリマス、又豫算外ノ國庫ノ負擔トナル
ベキ契約ニ關スル件追第二號ハ、陸海軍ノ
軍備充足上ノ便宜ヲ得ムトスルモノ等ノ

趣旨ニ基クモノデアリマス、以上ガ只今
上程セラレテ居リマス、三案ノ大要デアリ
マス、右三案審議ノ爲、三月十五日豫算
ノデアリマス、本豫算案ノ委員會ニ於テ
當然問題トナリマシタノハ、陸海軍ノ新
軍備計畫ノ内容デアリマス、此ノ點ニ付テ
ハ祕密會ニ於テ陸海軍當局ヨリ種々説明ヲ
承ツタノデアリマス、其ノ説明ニ依リマシテ
我々ハ我ガ國ノ前途益、多難ナルコトヲ一層
痛切ニ感ジタノデアリマシテ、此ノ間ニ處
シテ政府方苟モ誤認リナカラムコトヲ希望シ
テ已マナイ次第デアリマス、尙右ノ外委員
會ニ於テ質疑應答ノアリマシタ點ヲ二三申
述べマス、其ノ一ハ、皇軍占據地域及租界
ニ於ケル治安狀況デアリマス、政府ハ占據
地域ニ於テハ治安第一主義ヲ持シ、主要地
域ニハ軍隊ヲ駐屯セシムルト共ニ、新政權
ノ軍警機關其ノ他民衆ノ自衛組織ヲ利用
セムトスル方針デアリ、又各機關ノ連絡協
調ニ付テハ十分意ヲ用ヒテ居ルトノコトデ
アリマシタ、尙又上海租界ニ於ケル治安ニ
關シテハ、工部局トモ折衝ヲ重ね、改善ニ努
力シテ居ル旨ノ答辯ガアッタノデアリマス、
其ノ二ハ生産力擴充計畫ニ關スルモノデア
リマス、從シテ御指摘ノヤウナコトガアッタコ
トヲ認メルケレドモ、今後ハ御希望ニ副フ
ルモノガアリ、又急速ヲ要スルモノモアリ
マス、從シテ御指摘ノヤウナコトガアッタコ
ニ關シテハ、調查審議ヲ慎重ニ致ス必要ア
リマス、委員會ニ於ケル質疑應答ノ大體ハ以
上ノ如クデアリマシタ、斯クシテ討論ニ入ッ
タノデアリマスガ、本案養成ノ旨ノ發言ガ
ヤウ十分努力スル旨ノ言明ガアッタノデア
リマス、委員會ニ於ケル質疑應答ノ大體ハ以
上ノ如クデアリマシタ、斯クシテ討論ニ入ッ
タノデアリマスガ、本案養成ノ旨ノ發言ガ
アリ、採決ノ結果滿場一致可決ト相成ツタノ
デアリマス、右御報告申上ゲマス

○議長(伯爵松平頤壽君) 別ニ御質疑モナ
イヤウデゴザイマスルカラ、是ヨリ討論ニ
移リマス、次田大三郎君
(次田大三郎君演壇ニ登ル)
○次田大三郎君 私ハ只今議題ト相成ツテ
居リマスル昭和十四年度總豫算追加案外二

件ニ對シテ賛成ノ意見ヲ申述ベヨウト存ズルノデアリマス、此ノ昭和十四年度ノ總豫算追加案ヲ檢討致シマスルト、歲出追加總額九億一千餘萬圓ノ中デ、滿洲事件費ノ追加ガ約三億七千萬圓アリマス、次ニ海軍ノ國防充實ニ要スル經費ノ追加ガ一億六千五百餘萬圓アルノデアリマスルガ、是ハ實ハ昭和十四年度ヨリ昭和十九年度ニ亘リマシテ、國防充實ニ關スル繼續費ノ追加ガ出テ居リマス、其ノ追加額總計十六億九千四百餘萬圓ノ一部ガ茲ニ頭ヲ出シテ居ルノデアリマシテ、本案ノ重點ハ正ニ此ノ約十七億圓ノ繼續費ノ追加ヲ認ムルカ認メザルカト云フコトニアルト考ヘルノデアリマス、回顧致シマスレバ最近數年ノ間ニ於テ、我が日本國民ハ貴重ナル經驗ヲ二度迄モ致シテ居ルノデアリマス、其ノ一ツハ昭和七八年ノ交、滿洲事件ガ起リマスルト歐米諸國ハ舉シテ我が國ニ反対ヲ致シ、中ニモ其國ノ如キハ將ニ實力ヲ以テ我が國ノ前ニ立塞ガラムト致シタノデアリマス、併シナガラ當時我ガ海軍ノ威力ハ克ク右某國ヲ威壓シテ、其ノ企テヲ未發ノ中ニ打撃クコトガ出來マシテ、事件勃發ノ當初ヨリ今日ニ至ル迄シタコトハ、私共ノ記憶ニ尙新タル所デアリマス、今一ツハ今次ノ日支事件ニ於キマシテ、私共ヲシ切齒扼腕、憤慨又憤慨セノ間、某々ノ諸國ハ蔣政權ヲ援助致シマシテ、百方我國ノ爲ス所ニ妨害ヲ加ヘテ居リマス、私共ヲシ切齒扼腕、憤慨又憤慨セシメテ居ルノデアリマス、併シナガラ其ノ爲ス所ハ、今日迄ノ所、或ハ蔣政權ニ武器ヲ供給スルトカ、或ハ金ヲ貸ストカ、或ハ自國權益ノ擁護ニ藉口シテ、種々嫌ガラセナ申出ヲ我國ニ對シテ致シマスルト云フ程

アルコトデアリマセウガ、我ガ海軍が確シカリト西太平洋ノ制海權ヲ把握シテ微動ダモシナイ、其ノ實力ガ某々國ノ是レ以上ノ妄動ヲ抑付ケテ居ルト云フコトハ、何トシテモダイナル理由ノ一ツデアルト云フコトハ争フベカラザル、我々ガ今眼ノ前ニ見テ居ル所ノ實質ナノデアリマス、是ハ即チ孫子ニ所謂百戰百勝ハ善ノ善ナルモノニ非ズ、戰ハズニ人ノ兵ヲ決スルハ、即チ善ノ善ナルモノナリト云フ、之ニ該當スルモノニアリマシテ、此ノ點私共國民ハ大イニ意ヲ強シテ、本案ノ重點ハ正ニ此ノ約十七億圓ノ繼續費ノ追加ヲ認ムルカ認メザルカト云フコトニアルト考ヘルノデアリマス、反對ニウスルト同時ニ、願クハ將來如何ナル場合ニアシテモ斯クノ如クデアリタイト云フコトヲ、深々念願スル者デアリマス、反對ニ之ヲ某々國ノ側ヨリ申シマスレバ、彼等ハ最近數年ノ間ニ於テ、二度迄モ戰ハズシテ屈シタノデアリマス、戰ハズシテ敗レタノデアリマス、茲ニ於テ彼等ハ匆忙トシテ庵大ナル海軍擴張、空軍擴張ヲ計畫致シマシテ、莫大ナ費用ヲ投ジテ既ニ之ニ著手シテ居ルノデアリマス、新聞通信ノ傳フル所ニ申シテモ我が海軍ハ實ニ立派ヲ傳統ヲ持ツテ居ルコトハ世間周知ノ事實デアリマス、私大正十三四年ノ頃、茨城縣廳ニ奉職致シテ居リマシテ、親シク霞ヶ浦航空隊ノ訓練ノ狀況ヲ見ルノ機會ヲ持ツタノデアリマスガ、其ノ训练タルヤ實ニ眞劍ト申シマスカ、悲壯ト申シマスカ、非常ナ猛訓練デアリマシテ、從ツテ又犠牲者ガ續々ト出ルト云フ狀況デアッタノデアリマス、今次事變ニ當リマシテ、殊ニ事變ノ初頭ニ於キマシテ、我ガ海軍關係ノ繼續費ノ追加約十七億圓ハ、即チ此ノ對策ヲ具體化セムトスルモノニアリマス、私共ハ此ノ事變下ニ於テ軍機保リマス、ガ只今問題トナツテ居リマスル此ノ細ナル説明ヲ聽取スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、從ツテ大體ノ數字カラ判断ヲ致ス

外ハナイノデアリマシテ、果シテ此ノ御要求ノ金額ヲ以テ某々國ノ建造セムトスル世界海軍史上空前ノ大海軍ニ對シマシテ、依然ト運動ヲ抑付ケテ居ルト云フコトハ、何トシテモ大イナル理由ノ一ツデアルト云フコトハ争フベカラザル、我々ガ今眼ノ前ニ見テ居ル所ノ實質ナノデアリマス、是ハ即チ孫子ニ所謂百戰百勝ハ善ノ善ナルモノニ非ズ、戰ハズニ人ノ兵ヲ決スルハ、即チ善ノ善ナルモノナリト云フ、之ニ該當スルモノニアリマシテ、此ノ點私共國民ハ大イニ意ヲ強シテ、本案ノ重點ハ正ニ此ノ約十七億圓ノ繼續費ノ追加ヲ認ムルカ認メザルカト云フコトニアルト考ヘルノデアリマス、反對ニウスルト同時ニ、願クハ將來如何ナル場合ニアシテモ斯クノ如クデアリタイト云フコトヲ、深々念願スル者デアリマス、反對ニ之ヲ某々國ノ側ヨリ申シマスレバ、彼等ハ最近數年ノ間ニ於テ、二度迄モ戰ハズシテ屈シタノデアリマス、戰ハズシテ敗レタノデアリマス、茲ニ於テ彼等ハ匆忙トシテ庵大ナル海軍擴張、空軍擴張ヲ計畫致シマシテ、莫大ナ費用ヲ投ジテ既ニ之ニ著手シテ居ルノデアリマス、新聞通信ノ傳フル所ニ申シテモ我が海軍ハ實ニ立派ヲ傳統ヲ持ツテ居ルコトハ世間周知ノ事實デアリマス、私大正十三四年ノ頃、茨城縣廳ニ奉職致シテ居リマシテ、親シク霞ヶ浦航空隊ノ訓練ノ狀況ヲ見ルノ機會ヲ持ツタノデアリマスガ、其ノ训练タルヤ實ニ眞劍ト申シマスカ、悲壯ト申シマスカ、非常ナ猛訓練デアリマシテ、從ツテ又犠牲者ガ續々ト出ルト云フ狀況デアッタノデアリマス、今次事變ニ當リマシテ、殊ニ事變ノ初頭ニ於キマシテ、我ガ海軍關係ノ繼續費ノ追加約十七億圓ハ、即チ此ノ對策ヲ具體化セムトスルモノニアリマス、私共ハ此ノ事變下ニ於テ軍機保リマス、ガ只今問題トナツテ居リマスル此ノ細ナル説明ヲ聽取スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、從ツテ大體ノ數字カラ判断ヲ致ス

努効ニ對シテ絶大ナル敬意ヲ表セザルヲ得テ此ノ對策ヲ具體化セムトスルモノニアリマス、此ノ訓練ヲ重ンズル海軍ノ傳統ハ、之ヲ何處迄モ持チ續ケテ、更ニ其ノ上ニ一段ノ努力ヲ加ヘテ戴キタイト云フコトハ、決シテ偶然ナ事デナイ、又一朝夕ニシテ出來上ヅタモノデモアリマセヌ、實ニ其ノ頃カラノ火ノ出ル如キ猛訓練ノ結果ニアナラヌノデアリマス、私共ハ今ニ於テ豫算案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス○議長(伯爵松平賴壽君)是ニテ討論ハ終リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ三案全部ヲ問題ニ供シマス、各テ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)○議長(伯爵松平賴壽君)是ニテ討論ハ終リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ三案全部ヲ問題ニ供シマス、各テ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)○議長(伯爵松平賴壽君)是ニテ討論ハ終リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ三案全部ヲ問題ニ供シマス、各テ贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス(拍手)

第一讀會 八田商工大臣

(左ノ送付文及法案ハ朗讀ヲ經サ
ルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之
ニ倣フ)

輕金屬製造事業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平頤壽殿

輕金屬製造事業法案

第一條 本法ハ國防ノ整備及產業ノ發達

ヲ期スル爲本邦ニ於ケル輕金屬製造事

業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ輕金屬製造事業ト稱

スルハアルミニウム、アルミナ又ハマ

グネシウムノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂ア

ノ限ニ在ラズ

第三條 輕金屬製造事業ヲ營マントスル

者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ

以テ定ムル輕金屬製造事業ニ付テハ此

ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムモノノ外前項ノ許可ニ關

シ必需要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベ

キ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式

會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締

役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決

權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ

依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限

ル前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務

ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ

半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人

又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコト

(要ス)

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定

ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ

其ノ效力ヲ失フ

第五條 第三條ノ許可ヲ受ケタル會社(輕

金屬製造會社)ハ政府ノ指定スル期間

内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ

限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコト

ヲ得

輕金屬製造會社前二項ノ期間内ニ其ノ

事業ヲ開始セザルトキハ第三條ノ許可

ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 輕金屬製造會社其ノ設備ヲ増設

シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定

ム所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第七條 輕金屬製造會社政府ノ認可ヲ受

ケ本法施行後五年以内ニ於テ政府ノ指

定スル期間内ニ命令ノ定ムル規模以上

ノ設備ヲ新設シ又ハ増設シタルトキハ

設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其

ノ新設シ又ハ増設シタル設備ヲ以テ營

ム輕金屬製造事業ニ付所得稅及營業收

益稅ヲ免除ス

前項ノ輕金屬製造會社其ノ設備完成前

其ノ一部ヲ以テ輕金屬製造事業ヲ營ム

場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得稅及營

業收益稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依

ル期間内ニ設備ヲ完成セザルトキハ此

ノ限ニ在ラズ

第八條 北海道、府縣及市町村其ノ他之

別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル

場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第七條ノ規定ニ依リ所得稅及營

業收益稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續

スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト

認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ第七

條ノ規定ニ依ル所得稅及營業收益稅免

除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼

ス

第十條 輕金屬製造會社其ノ事業ノ爲必

要ナル器具又ハ機械ヲ政府ノ認可ヲ受

ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五

年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免

除ス

第十一條 輕金屬製造會社ノ營ム輕金屬

製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ

收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ

同法ヲ適用ス

第十二條 輕金屬製造會社ハ事業擴張ノ

場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業

ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全

額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコ

トヲ得

第十三條 輕金屬製造會社ハ政府ノ認可

ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ

充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ

社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總

額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユル

コトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存ス

ル財產ガ拂込ミタル株金額ニ満タザル

特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要

ナシト認メケルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 輕金屬製造會社其ノ事業ノ全

部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止

セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依

リ政府ノ許可ヲ受クベシ

輕金屬製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ

受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條 輕金屬製造會社ハ命令ノ定ム

ル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ

届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦

同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫

ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條 政府ハ輕金屬製造會社ニ對シ

業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲シ

ムルコトヲ得

政府ハ輕金屬製造會社ニ對シ業務及會

所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所

ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿

書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコト

ヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス

政府監督上必要アリド認ムルトキハ當

該官吏ヲシテ輕金屬製造會社ノ事務所

ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又

ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリド認ムルトキハ當

該官吏ヲシテ輕金屬製造會社ノ事務所

ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又

ハ處分ヲ爲スコトヲ得

爲スコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ輕金屬製造事業ヲ營ミタル者

二 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ設備ヲ増設シ又ハ變更シタル者

二 第十四條第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者

三 第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

四 第十五條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ事業計畫ヲ提出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

五 第十七條乃至第十九條、第二十五條又ハ第三十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六 第二十四條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ其ノ命ぜラレタル事業以外ノ事業ヲ行ヒタル者

七 第二十六條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケタル價格ニ依ラズシテアルミニウム又ハマグネシウムノ買入、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ヲ爲シタル者

八 第二十八條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ借入金ヲ爲シタル者

九 第二十九條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル業務規程ニ依ラズシテ

十 第二十九條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ業務規程ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

十一 第三十條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル事業計畫ニ依ラズシテ事業ヲ行ヒタル者

十二 第三十條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

十三 第三十條第三項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

二 第十六條第一項又ハ第三十一條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

三 第十六條第三項又ハ第三十一條第一項ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ臨檢査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

四 第四十條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

五 第四十一條 營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第三十六條乃至第三十八條又ハ第三十九條第一號ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ

第四十二條 第三十六條乃至第三十八條及第三十九條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 第三十三條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十四條 第三百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ輕金屬製造事業ヲ當ム者ハ

前項ノ者ニシテ本法施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ設備ノ増設ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ輕金屬製造事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ノ當該設備ニ關シテハ第七條及第八條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

マシタ輕金屬製造事業法案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説明申上ダマス、輕金屬即チ「アルミニウム」及「マグネシウム」ハ共ニ「ジユラルミン」等輕合金ノ材料トシ致シマシテ、航空機ノ製造ニ缺クベカラザル資材デアリマシテ、國防ノ整理上極メテ緊要ナルコトハ申ス迄モアリマセヌ、且「アルミニウム」及「マグネシウム」ハ各種ノ機械、器具、裝置ノ材料トシテ、或ハ又銅其ノ他ノ金屬ノ代用トシテ、單ニ國防上ノミナラズ諸般ノ產業ノ振興上ニモ重要ナル物資デアリマシテ、今後ノ國防整備ト相俟チマシテ、「アルミニウム」及「マグネシウム」ニ對スル需給ニテ、國防整備ノ發達致シタモノデアリマスルノデ、現在ノ生産能力ニ於キマシテハ、到底需要ヲ充足シ得ルニ至リマセリマス、然ルニ我ガ國ノ輕金屬製造事業ハ、年々海外ヨリ相當多量ノ輸入ヲ餘儀ナシテ、最近ニ至テ漸ク發達致シタモノデクサレテ居ル次第デアリマス、又單ニ生産數量方不足デアリマスルノミデナク、生産技術乃至八生產品ノ品質ノ點ニ付キマシテモ、歐米諸國ノ同種事業ニ比シマシテ遜色ガアリ、國防工業トシテ遺憾ノアル點モ少クナインデアリマス、曩ニ現内閣ニ於テ決定致シマシタ生産力擴充計畫ニ於キマシテモ、「アルミニウム」及「マグネシウム」ハ共ニ重要ナル生産力擴充目標ノ物資ト致シマガ、此ノ際我ガ國ノ輕金屬製造事業ヲ急速に發展セシム、之ヲ確立シテ、單ニ國內ノ需要ヲ充スニ止ラズ、戰時ニ於ケル軍需資材ヘノ轉換ヲ考慮致シマシテ、平時ニ於テモ相當ノ輸出餘力ヲ有スル程度ニ迄到達致

○國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル

(國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル)

シマシテ、且其ノ生産技術ヲ極力向上進歩
セシメ、歐米ニ於ケル輕金屬製造事業ニ遡
色ナカラシムルニ至ラシムルコトハ、刻下
喫緊ノ要務デアルト存スルノデアリマス、
之方爲ニハ輕金屬製造事業ニ對シマシテ、
各種ノ保護助成ヲ與ヘマスルト共ニ、適切
ナル獎勵策ヲ講ジテ、生産力ノ擴充ヲ極力
促進シ、且必要ナル指遺監督ヲ加ヘテ、其ノ
生産技術及經營ヲ改善向上セシメ、併セテ
「アルミニウム」又ハ「マグネシウム」ノ需給
ノ圓滑竝ニ價格ニ適正ヲ圖リマスルガ爲ニ、
必要ニ應ジテ其ノ全製造事業者ヲ中心トス
ル特殊會社ヲシマシテ、「アルミニウム」又
ハ「マグネシウム」ノ共同販賣乃至配給統制
ヲ行ハシメ、之ニ依ツテ同時ニ海外ノ同種事
業ニ對シ、我國ノ事業ノ存立ヲ確保セシ
ムルノ要ガアル次第アリマス、以上ガ本
法案提案ノ大體ノ理由デアリマス、何卒御
審議ノ上御協贊アラムコトヲ御願ヒ致シマ
ス

○子爵戸澤正己君 只今ノ議題トナリマン
タ輕金屬製造事業法案ハ、重要ナル法案デ
アリマスルガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十
八名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任ス
ルノ動議ヲ提出致シマス
○子爵西大路吉光君 賛成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、特別委員ノ指名ヲ書記官ヲシテ朗
读致サセマス
〔丸龜書記官朗讀〕

輕金屬製造事業法案特別委員
会主席 廣太郎君 侯爵山内 豊景君

古文書外

昭和十四年三月十八日 貴族院議事速記録第二十四號 昭和十三年法律第六十四號中改正法律案

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第五、昭和
十三年法律第六十四號中改正法律案、日程
第六、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行
限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案、日程第
七、昭和十三年法律第二十三號中改正法律
案、日程第八、昭和十二年法律第八十四號
中改正法律案、日程第九、昭和十四年度一
般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行
ニ關スル法律案、日程第十、昭和七年法律
第一號中改正法律案、日程第十一、支那事
務金ノ臨時擴張ニ關スル特別賃金トシテ交付スル爲公債
發行ニ關スル法律案、日程第十二、昭和十
三年法律第八十七號中改正法律案、以上政
府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ法
律案ヲ一括シテ議題トナスコトニ御異議ガ
ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、石渡大藏大臣
案 昭和十三年法律第六十四號中改正法律
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

貴族院議長 伯爵松平頼壽殿
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

貴族院議長 小山 松壽
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

昭和十三年法律第六十四號中改正法律
案
〔十七億圓〕ヲ「十二億圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
参照
昭和十三年法律第六十四號ハ兌換銀行
券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル
法律ナリ

昭和十三年法律第二十三號中改正法律
案
〔十七億圓〕ヲ「十二億圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
参照
第一條 關東局、朝鮮總督府、臺灣總督
府及樺太廳、各特別會計ニ於ケル所得
稅、法人資本稅、清涼飲料稅、砂糖消
費稅、取引所稅、出港稅、印紙稅又ハ
臨時利得稅ノ昭和十三年度以降ノ増徵
ニ因ル增收額及利益配當稅、公債及社
債利息稅、通行稅、入場稅、特別入場
稅、物品稅、建築稅、遊興飲食稅又ハ
遊興稅ノ創設ニ因ル收入額中勅令ノ定
ムル金額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依
リ之ヲ當該特別會計ヨリ臨時實事費特
別會計ニ繰入ルベシ

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第五、昭和
十三年法律第六十四號中改正法律案、日程
第六、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行
限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

昭和十三年法律第六十四號中改正法律
案
〔十七億圓〕ヲ「十二億圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
参照
昭和十三年法律第六十四號ハ關東局、
朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各
特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相
當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ
繰入ルコトニ關スル法律ナリ

昭和十三年法律第六十四號中改正法律
案
〔十七億圓〕ヲ「十二億圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
参照
昭和十三年法律第六十四號ハ關東局、
朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各
特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相
當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ
繰入ルコトニ關スル法律ナリ

昭和十三年法律第六十四號中改正法律
案
〔十七億圓〕ヲ「十二億圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
参照
昭和十三年法律第六十四號ハ兌換銀行
券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル
法律ナリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第五、昭和
十三年法律第六十四號中改正法律案、日程
第六、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行
限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

昭和十三年法律第六十四號中改正法律
案
〔十七億圓〕ヲ「十二億圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
参照
昭和十三年法律第六十四號ハ關東局、
朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各
特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相
當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ
繰入ルコトニ關スル法律ナリ

昭和十三年法律第六十四號中改正法律
案
〔十七億圓〕ヲ「十二億圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
参照
昭和十三年法律第六十四號ハ關東局、
朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各
特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相
當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ
繰入ルコトニ關スル法律ナリ

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案

昭和十二年法律第八十四號中左ノ通改正ス

「六十四億七千六百二十萬圓」ヲ「百四億三十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参 照

昭和十二年法律第八十四號ハ支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第一號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和七年法律第一號中改正法律案

「十三億八千五百萬圓」ヲ「十七億三千二百六十萬圓」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参 照

昭和七年法律第一號ハ滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律ナリ

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案

支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年法律第八十七號中改正法律案

昭和十三年法律第八十七號中左ノ通改正ス

「納稅ノ擔保」ヲ「政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保」ニ改ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参 照

昭和十三年法律第八十七號ハ本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律ナリ

○國務大臣(石渡莊太郎君)只今議題トナリマシタ昭和十三年法律第六十四號中改正法律案外七件提出ノ理由ヲ説明致シマス、先づ兌換銀行券ノ保證限度ノ臨時擴張ニ關スル法律中改正法律案ニ付テ説明ヲ致シマス、本法律案ハ支那事變ノ進展ニ伴ヒマシテ、兌換銀行券ノ發行高ノ尙增加ヲ來サムトスル趨勢ニ對處スル爲、先ニ臨時ニ擴張シマシタ兌換銀行券ノ保證發行限度ヲ更ニ五億圓擴張シテ、之ヲ二十二億圓ト致サムトスルモノデゴザイマス、昨年四月兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律方施行セラレタノデアリマスガ、其ノ後ニ於ケル經過ヲ見マスルノニ、事變ノ進展ト共ニ一般經濟取引ノ膨脹ニ依リマシテ、現現在ノ儘ニ致シテ置キマス時ハ、朝鮮及臺灣ニ於テ經濟取引上必要トセラレル通貨ヲ圓滑ニ供給致シマスル上ニ、支障ヲ生ズルコトナキヲ保シ難イノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスノデ、今回支那事變ニ關聯スル臨時措置トシテ、朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ヲ、ソレド^ル六千萬圓及三千萬圓擴張スルヲ適當ト認メマシテ、本法律案ヲ提出致シタノデアリマス、次ニ昭和十三年法律第二十三號中改正法律案ニ付テ説明致シマス、今回一般會計ニ於

キマシテ、臨時軍事費ノ一部ニ充ツル爲、
清涼飲料税、砂糖消費税、印紙税、臨時利
得税、利益配當税、公債及社債利子税及物
品税ヲ増徴スルト共ニ、物品税ノ課稅範圍
ヲ擴張シ、建築税及遊興、飲食税ヲ創設スル
コト致シマシテ、目下衆議院ニ於テ審議
中デアリマスガ、關東、朝鮮、臺灣及樺太
ニ於キマシテモ、内地ニ於ケルト同趣旨ノ
下ニ、概不右ニ準ジ同種ノ租稅ノ增徴又ハ
課稅範圍ノ擴張ヲ爲スト共ニ、新稅ヲ創設
スルコトニ致シマシテ、其ノ收入額ノ一部
ニ相當スル金額ヲ、毎年度豫算ノ定ムル所
ニ依リ、外地特別會計カラ臨時軍事費特別
會計ニ繰入ル、コト致シマシタノデゴザ
イマスルガ、之ガ會計上ノ處理ニ關シマシ
テ、昭和十三年法律第二十三號中改正ヲ必
要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致シ
マシタ次第デゴザイマス、次ニ昭和十二年
法律第八十四號中改正法律案ニ付テ説明致
シマス、支那事變ニ關スル經費ニ付キマシ
テハ、第七十一回、第七十二回及第七十三
回ノ各帝國議會ノ協賛ヲ經マシテ、其ノ財
源ニ充ツル爲ノ公債發行ヲ爲シ得ル權能ヲ
得テ居ルノデアリマスガ、事態ノ推移ニ伴
ヒマシテ、更ニ臨時軍事費ノ追加ヲ必要ト
致シマスル處、其ノ所要財源中六億八千九
十餘萬圓ニ付キマシテハ、一般會計及各特
別會計ヨリノ繰入金等ヲ以テ充當シ、三十
九億二千四百餘萬圓ニ付キマシテハ、之ヲ
公債財源ニ依ルコト致シマス、次ニ昭和
十二年法律第八十四號中ノ公債發行限度ヲ
増額シ、百四億三千萬圓トスル必要ガアリ
マスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第
デゴザイマス、次ニ昭和十四年度一般會計
歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關ス

ル法律案ニ付テ説明致シマス、昭和十四年
度歲入歲出總豫算ニ付キマシテハ、之ニ關スル法律
案ヲ本期議會ニ提出シテアルノデアリマス
ガ、今回別途提出致シマシタ同年度歲入歲
出總豫算追加第一號ニ計上セル經費ノ所
要財源總額九億十五十餘萬圓ヨリ、增稅其
ノ他ノ普通歲入ヲ以テ充當スベキ分一億八
千二百四十餘萬圓ト、滿洲事件ニ關スル經
費支辨ノ爲ノ公債法ニ依ル公債金ヲ以テ充
當スベキ分三億六千四百七十餘萬圓トヲ差
引キマシタ殘額、三億六千三百二十餘萬圓
ニ付キマシテハ、公債ニ依ルコト致シテ
改正法律案ニ付テ説明致シマス、昭和十四
年度ニ於キマシテ満洲事件ニ關スル經費ト
シマスノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第
居リマスノデ、外國債ニ關シマシテハ、昭和十三年法律第
八十七號ニ依リ、命令ヲ以テ定メタル一定
ノ外國債ニ付キマシテ、租稅ノ賦課又ハ納
稅ノ擔保ニ關シマシテノミ、國債ト同様ノ待遇
ヲ與ヘテ居リマスルガ、更ニ其ノ範圍ヲ擴
張致シマシテ、政府ニ對スル保證金ノ他
ノ擔保ノ總額ニ關シマシテモ亦、爾
今國債ト同様ノ待遇ヲ與フルコトトスル爲
該法律中改正ヲ爲スノ必要ガアリマスル
ノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴ
ザイマス、以上八件ニ付キマシテハ、何卒
御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ
希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
算上不用ト相成ッタ金額等ガ千七百十餘萬
圓アリマスル爲、之ヲ差引キマシテ、三億
四千七百六十餘萬圓ヲ、現行ノ昭和七年法
律第一號ニ依リ、公債發行限度ヲ增加スル
必要ガアリマスノデ、本法律案ヲ提出致シ
マシタ次第デゴザイマス、次ニ支那事變ニ
關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行
ニ關スル法律案ニ付テ説明致シマス、支
那事變ニ關スル勤務ニ從事シ、之ガ爲死歿
致シマシタル陸海軍軍人軍屬等ノ遺族ニ對

付キマシテハ、昭和十三年八月以降當該
豫算ヲ以テ大藏省預金部又ハ日本銀行ヨリ
公債ヲ買上ゲマシテ、之ヲ交付スルコトト
致シテ參リマシタガ、右ハ寧ロ交付公債發
行ノ方法ニ依ルノヲ適當ト認メマシタル
處、之ガ爲ニハ公債發行ニ關スル法律ノ制
定ヲ必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提
出致シマシタ次第デゴザイマス、最後ニ昭
和十三年法律第八十七號中改正法律案ニ付
テ説明致シマス、本邦内ニ於テ募集シタル
外國債ニ關シマシテハ、昭和十三年法律第
八十七號ニ依リ、命令ヲ以テ定メタル一定
ノ外國債ニ付キマシテ、租稅ノ賦課又ハ納
稅ノ擔保ニ關シマシテノミ、國債ト同様ノ待遇
ヲ與ヘテ居リマスルガ、更ニ其ノ範圍ヲ擴
張致シマシテ、政府ニ對スル保證金ノ他
ノ擔保ノ總額ニ關シマシテモ亦、爾
今國債ト同様ノ待遇ヲ與フルコトトスル爲
該法律中改正ヲ爲スノ必要ガアリマスル
ノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴ
ザイマス、以上八件ニ付キマシテハ、何卒
御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ
希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 戶澤子爵ノ動議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
可
昭和十四年三月十六日
衆議院議長 小山 松壽
青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ
者ノ就業時間ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ

商店法、鑛業法ニ基キテ發スル命令又ハ

工場法、鑛業法ニ基キテ發スル法律案

商店法中就業時間ニ關スル法律案

ヲ青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ

者ニシテ十六歳未滿ノモノニ付適用スル

場合ニ於テハ其ノ者ガ履修スベキ義務課

程タル一日ノ教授及訓練時間ハ之ヲ就業

時間ト看做ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣男爵荒木貞夫君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵荒木貞夫君)只今議題ト

ナリマシタ地方學事通則中改正法律案提出

ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、青年學校教育

ノ義務制ノ實施ニ當リマシテハ、市町村ノ

狀況ニ依リ、青年學校生徒ノ教育事務ヲ他

ノ市町村等ニ委託シ得ル途ヲ開クノ必要ガ

アリマスルコトト、尙此ノ機會ニ字句ノ整

理ヲモ併せ行ハムガ爲、同法中二三ノ改正

ヲ爲サムトスルモノデアリマス、何卒宜シ

ク御審議アラムコトヲ切望致シマス

(國務大臣廣瀬久忠君演壇ニ登ル)

○國務大臣(廣瀬久忠君)只今議題トナリ

マシタ青年學校令ニ依リ就學セシメラルベ

キ者ノ就業時間ニ關スル法律案ニ付キマシテ

提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、青年學校ノ

義務制ハ昭和十四年度ヨリ實施セラレル豫

定デアリマス、從ヒマシテ工場、鑛山、商店

等ニ働く者モ青年學校ニ就學セシメラル、

コトト相成ルノデアリマス、現在工場、鑛

山又ハ商店ニ働く者居リマスル十六歳未滿

ノ者ニ付キマシテハ、既ニ工場法、鑛業法

ニ基ク命令又ハ商店法ニ於テ就業時間ノ制

限ヲ設ケ、年少者ニ對シ特別ノ保護ヲ圖ッテ

居ルノデアリマス、然ルニ是等ノ者ニ付テ

國家ガ青年學校ノ就學ヲ義務トシテ命ズル

場合ニ於キマシテ、其ノ者ノ就業時間ニ對

シ新タニ制限ヲ設ケナイト致シマスレバ、

勢ヒ是等ノ年少者ハソレハノ法令ニ於テ

許サレテ居リマスル最長時間ノ勞働ニ加フ

ルニ更ニ今回ノ青年學校義務制ニ依ル教育

ヲ受クルコトナルノデアリマシテ、其ノ

結果ハ明カニ年少者ニ心身ノ負擔ヲ加重セ

シムルノデアリマス、ソレ故ニ一面ニ於キ

マシテ青年學校ヲ義務制ト致シマス所以ハ、

社會ノ實務ニ從事スル青年ノ教育ヲ一段ト

徹底セシムルコトガ、今日ノ我國情ニ鑑

ミ極メテ緊要ナコトト考ヘラレタカラデア

リマス、而シテ之ガ教育ノ效果ヲ擧ゲマス

爲ニハ、就學セシメラルベキ是等ノ者ニ對

シマシテ、適當ナル保護ヲ與フルノ必要ガ

アルノデアリマス、以上ノヤウナ趣旨カラ

青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ

就業時間ニ新タニ制限ヲ加ヘル必要ヲ認メ、

茲ニ本法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、

以上ハ本法案ノ概要デアリマスガ、何卒慎

重御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ御願ヒ

致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君)御質疑ガナケレ

バ、兩案ハ之ヲ青年學校教育費國庫補助法

案ノ特別委員会併託致シマス

第一讀會、鹽野司法大臣

司法保護事業法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

貴族院議長伯爵松平頼壽殿
衆議院議長 小山 松壽

司法保護事業法
司法保護事業法

昭和十四年三月十六日

貴族院議長伯爵松平頼壽殿
衆議院議長 小山 松壽

司法保護事業法
司法保護事業法

第一條 本法ニ於テ司法保護事業トハ左

ニ掲グル者ノ保護ヲ爲ス事業及右事業

ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業

ヲ謂フ

一 訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起

セズトセラレタル者

二 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者

三 刑ノ執行停止中ノ者

四 刑ノ執行ヲ終リタル者

五 假出獄中ノ者

六 刑ノ執行ヲ終リタル者

七 少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

者

スル者ニ對シ司法保護事業ニ關スル事項ノ調査ヲ委嘱スルコトヲ得

第六條 司法保護事業ヲ經營スル者其ノ事業ノ經營ニ必要ナル資金ヲ得ル爲寄附金ヲ募集セントスルトキハ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ寄附金ヲ募集シタル者(其ノ承繼者ヲ含ム)ハ其ノ收支ヲ寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ニ報告スベシ

前項ニ掲グル者其ノ寄附金又ハ之ニ依リテ得タル財產ヲ處分セントスルトキハ寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ノ許可ヲ受クベシ

第七條 司法保護事業ヲ經營スル者本法ニ違反シ、公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞罪ヲ犯スノ危險ヲ防止シ之ヲシテ進ン

デ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲性格ノ陶冶、生業ノ助成其ノ他適當ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス

保護ノ種類及方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 政府ハ司法保護事業ヲ經營セントスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第九條 道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ司法保護事業ノ用ニ供スル土地建物ニ對シテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營

第十條 第一條ニ掲グル者ノ保護ヲ爲サ

シムル爲別ニ司法保護委員ヲ置ク
司法保護委員ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 司法保護事業ヲ經營スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ寄附金ヲ募集シタルトキ
二 第六條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

三 第六條第三項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ又ハ其ノ許可ニ反シテ寄附金又ハ之ニ依リ得タル財產ヲ處分シタルトキ

四 第七條ノ規定ニ依ル取消又ハ制限

二 違反シテ司法保護事業ヲ經營シタルトキ

第十二條 司法保護事業ヲ經營スル者ハ

其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十三條 司法保護事業ヲ經營スル者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行ストキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ司法保護事業ヲ經營スル者ニシテ命令ノ定ム所ニ依リ届出ヲ爲シタルモノハ第三條ノ規定ニ依ル認可

第六條第一項ノ規定ハ司法保護事業ヲ經

營スル者ニシテ本法施行前寄附金ノ募集ニ付行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シテハ其ノ許可ニ基キ本法施行ノ際現ニ募集中ノ寄附金ニ付之ヲ適用セズ

(國務大臣鹽野季彦君演壇ニ登ル)

○國務大臣(鹽野季彦君) 只今議題トナリ
マシタ司法保護事業法案ニ付キマシテ御説明申上げマス、近年ノ犯罪現象ヲ見マスルニ、再犯者ノ數ハ年ヲ逐フテ増加ノ傾向ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、之ヲ長期戰下ニ於ケル犯罪ノ推移ト併セ考ヘマスル時ハ、誠ニ憂慮ニ堪ヘザルモノガアリマス、平時ニ於キマシテモ、安寧秩序ハ國運ノ發展、國民ノ福祉ノ基礎デアリマスガ、今日國ヲ舉ガテ新東亞建設ノ大業ニ邁進シテ居リマスル時、銃後ニ於ケル治安ヲ確保スルコトハ最モ要緊ナル時務ニ屬スルノデアリマシテ、之ガ爲ニハ罪ヲ犯シタル者ヲ保護善導共ニ、進ンデ忠良ナル臣民ノ道ニ復歸セシメ、國民トシテ應分ノ御奉公ヲ爲サシムルシテ、其ノ再犯ニ陥ルノ危險ヲ防止スルト共ニ、之ガ爲ニハ罪ヲ犯シタル者ヲ保護善導共ニ、進ンデ忠良ナル臣民ノ道ニ復歸セシメ、國民トシテ應分ノ御奉公ヲ爲サシムルヤウ、之ヲ輔導援護スルコトガ肝要デアリマス、御承知ノ如ク國家ノ經營スル司法保護施設ト致シマシテハ、思想犯ニ付テハ思想犯保護觀察法ニ基キ保護觀察所ガ設置セラレ、少年ニ付テハ少年法ニ基キ少年審判所及矯正院ガ設置セラレテ、何レモ相當ノ實績ヲ舉ガテ居ルノデアリマスガ、是等ノ國家機關ガ保護活動ヲ爲スニ當リマシテハ、民間ニ於テ經營セラル、司法保護事業ノ協力ニ俟ツ所ガ多イノデアリマス、而シテ思

存シテ居ルノ實情デアリマス、現在民間ノ保護事業經營者ノ數ハ一千二百ヲ超ユルノデアリマスガ、其ノ機構ハ少數ノ者ヲ除イテハ概ね脆弱デアリマスノミナラズ、其ノ保護活動ノ内容ニ付キマシテモ、從來殆ド各經營者ノ任意ニ委セラレテ居リマシテ關係カラ、其ノ熱意ニ於キマシテハ誠ニ推重スベキモノガアルニ拘ラズ、其ノ方法ニ於テハ今尙改善ノ餘地ヲ存スルト認ムベキモノモ少クナインデアリマス、尙又司法保護ノ對象トナルベキモノハ毎年數十萬ニモ達ズルノデアリマシテ、民間ニ於ケル保護事業經營者ノミノ努力ヲ以テシテハ、能ク當面ノ必要ニ對應シ得ナイ事情ニアリマスルバカリデナク、是等多數ノ保護對象者ノ中ニハ、保護事業經營者以外ノ民間有識者ノ輔導援護ニ依ッテ、更生復活セシメ得ルモノガ少クナインデアリマス、右ニ申述ベマシタ理由ニ依リマシテ、政府ハ一面司法保護事業ヲ經營スル者ニ對スル助成ノ方途ヲ講ジ、適當ナル指導監督ヲ加ヘテ、其ノ機能ヲ一層有效適正ニ發揮セシムルト共ニ、他

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認ヌマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十六、國際電氣通信株式會社法中改正法律案右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

(小字ハ衆議院ノ修正ナリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 國際電氣通信株式會社法中改正法律案

○議長(伯爵松平賴壽君) 國際電氣通信株式會社法中左ノ通改正ス
第一條中「其ノ附屬設備」ノ下ニ「(國內電氣通信ニ共用セラル)通信ケーブル設備及其ノ附屬設備ヲ含ム」ヲ加フ

○議長(伯爵松平賴壽君) 第二條 國際電氣通信株式會社ハ前條ニ定ムモノノ外政府ノ命令ニ依リ又ハ

其ノ認可ヲ受ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得

○議長(伯爵松平賴壽君) 第二條 國際電氣通信株式會社ハ前條ニ定ムモノノ外政府ノ命令ニ依リ又ハ其ノ認可ヲ受ケ左ノ事業ヲ營ムコトヲ得

○議長(伯爵松平賴壽君) 第三條 國際電氣通信事業ノ經營

一 外國ニ於ケル電氣通信事業ノ經營ノ附屬設備ノ貸付

二 外國ニ於ケル電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ貸付

三 電氣通信ノ設備及其ノ附屬設備ノ建設及保守ノ請負

四 電氣通信ノ用品ノ製造及販賣

五 前四號ニ掲タル事業ニ對スル投資

○議長(伯爵松平賴壽君) 只今議題トナリマシタ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重翠君 贊成

改ム

第五條 國際電氣通信株式會社ノ株式ハ
記名式トス
國際電氣通信株式會社ノ株主ハ政府、
公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシ
テ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員
ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決
權ノ過半數外國人若ハ外國法人ニ屬
セサルモノタルコトヲ要ス
勅令ノ定ムル法人ニシテ特ニ政府ノ許
可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ拘ラ
ス國際電氣通信株式會社ノ株主ト爲ル
コトヲ得

第六條 政府ハ國際電氣通信株式會社ニ
對シ其ノ資本ノ半額ヲ限り出資スルコ
トヲ得

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ
株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ
得

政府ハ國ノ所有ニ屬スル第一條ニ掲ク
ル設備及其ノ設備ヲ爲ス爲購入シタル
土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第六條ノ二 前條ノ規定ニ依リ政府ニ於
テ引受ケタル株式ノ拂込金ハ通信事業
特別會計ノ資本勘定ノ歲出トス

通信事業特別會計ニ屬スル財產ノ出資
ニ因リ政府ノ取得シタル株式ハ同特別
會計ノ資本所屬物件トス

第八條 政府ハ國際電氣通信株式會社ノ
設備ヲ使用シタルトキハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ該設備使用ニ對シ國際電氣通
信株式會社ニ交付金ヲ交付ス

第八條ノ二 國際電氣通信株式會社ハ商
法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集
スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミ
タル株金額ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條ノ三 政府ハ社債ノ元本ノ償還及
利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

前項ノ保證ニ因ル政府ノ支出金ハ通信
事業特別會計ノ業務勘定ノ歲出トス

第十二條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ、「電氣
通信ノ設備若ハ其ノ附屬設備」ヲ「第一
條ニ掲タル設備」ニ改ム

第十二條ノ二 政府ハ公益上必要アリト
認ムルトキハ國際電氣通信株式會社ニ
對シ電氣通信ノ技術ノ研究ニ關シ必要
ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十二條ノ三 國際電氣通信株式會社ハ
命令ノ定ムル技術者ヲ選任シ技術ニ關
スル事項ヲ擔任セシムヘシ

政府ハ前項ノ技術者カ其ノ職務ヲ怠リ
又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行
爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命スル
コトヲ得

第十二條ノ四 國際電氣通信株式會社社
債ヲ募集セムトスルトキ又ハ借入金ヲ
爲サムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第十二條ノ五 國際電氣通信株式會社事
業計畫ヲ設定シ又ハ變更セムトスルト
キハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 取締役及監查役ノ選任及解
任、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併
並解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ
非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十四條ノ五 國際電氣通信株式會社勅
令ノ定ムル營業期及爾後ノ每營業期ニ
於ケル配當シ得ヘキ利益金額カ政府以
外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對
シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ
配當ヲ爲スコトヲ要セス

第十四條ノ七 北海道、府縣及市町村其
ノ他之ニ準スヘキモノハ前條ノ規定ニ
依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレ
シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス但シ特別
ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ八 國際電氣通信株式會社左
ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ
其ノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス

社債ヲ募集スル場合ニ於ケル株主總會
ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出
席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲
スコトヲ得

第八條ノ三 政府ハ社債ノ元本ノ償還及
利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

前項ノ保證ニ因ル政府ノ支出金ハ通信
事業特別會計ノ業務勘定ノ歲出トス

第十二條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ、「電氣
通信ノ設備若ハ其ノ附屬設備」ニ改ム

第十二條ノ二 政府ハ公益上必要アリト
認ムルトキハ國際電氣通信株式會社ニ
對シ電氣通信ノ技術ノ研究ニ關シ必要
ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十二條ノ三 國際電氣通信株式會社ハ
命令ノ定ムル技術者ヲ選任シ技術ニ關
スル事項ヲ擔任セシムヘシ

政府ハ前項ノ技術者カ其ノ職務ヲ怠リ
又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行
爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命スル
コトヲ得

第十二條ノ四 國際電氣通信株式會社社
債ヲ募集セムトスルトキ又ハ借入金ヲ
爲サムトスルトキハ政府ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第十二條ノ五 國際電氣通信株式會社事
業計畫ヲ設定シ又ハ變更セムトスルト
キハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 取締役及監查役ノ選任及解
任、定款ノ變更、利益金ノ處分、合併
並解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ
非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十四條ノ五 國際電氣通信株式會社勅
令ノ定ムル營業期及爾後ノ每營業期ニ
於ケル配當シ得ヘキ利益金額カ政府以
外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對
シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ
於ケル配當シ得ヘキ利益金額カ政府以
外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對

令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ
又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決
議ヲ取消シ又ハ取締役若ハ監查役ヲ解
任スルコトヲ得

第十三條ノ二 國際電氣通信株式會社ヲ監督
スル官廳ノ官吏タリシ者ハ退職後五年間ハ
政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ國際電氣通
信株式會社ノ取締役及監查役ト爲ルコトヲ
得ス

第十四條中「主務大臣」ヲ「政府」ニ改ム
會社監理官ヲ置キ國際電氣通信株式會
社ノ業務ヲ監視セシム

第十四條ノ二 政府ハ國際電氣通信株式會
社監理官ヲ命スル營業期ニ於テ昭和十
四年三月三十一日以前ニ於テ發行シタ
ル政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對ス
リ利益ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テ昭和十
四年三月三十一日以前ニ於テ發行シタ
ル政府ノ所有スル株式ノ拂込株金額ニ對シ
年百分ノ七ノ割合ニ達セサルトキハ勅
令ノ定ムル營業期及爾後十年間ヲ限り
政府ノ所有スル株式ニ對スル配當ニ充
ムル利益配當金カ其ノ拂込株金額ニ對シ
年百分ノ七ノ割合ニ達セサルトキハ勅
令ノ定ムル營業期及爾後十年間ヲ限り
政府ノ所有スル株式ニ對スル配當ニ充
ムル利益配當金ヲ以テ之ニ達スル迄該株
式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得但シ
昭和十四年四月一日以後ニ於テ拂込ミ
タル株金額ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ六 國際電氣通信株式會社ニ
ハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年一
月一日ヨリ十年間其ノ通信ケーブル設
備ヲ以テ營ム事業ニ付所得稅及營業收
益稅ヲ免除ス

第十四條ノ七 北海道、府縣及市町村其
ノ他之ニ準スヘキモノハ前條ノ規定ニ
依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレ
シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス但シ特別
ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ八 國際電氣通信株式會社左
ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ
其ノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス

一 第六條第三項ニ規定スル出資ニ因

ル資本ノ増加

増資拂込株金額ノ千分ノ一

二 第六條第三項ニ規定スル出資ニ基

ク不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

第十四條ノ九 電信線電話線建設條例ハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ國際電氣通信株

式會社カ第一條ニ掲タル設備ノ建設及

保守ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

國際電氣通信株式會社カ本法若ハ本法

ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲

ス處分ニ違反シタルトキハ取締役又ハ

其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ百圓以上五千

圓以下ノ過料ニ處ス

第十六條ノ二 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺

太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ

勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府國際電氣通信株式會社法第六條第三

項ノ規定ニ依リ出資ヲ爲サンントスルトキ

ハ出資ノ目的タル財產ノ價格及之ニ對シ

テ與フル株式ノ數ニ付政府出資財產評價

委員會ノ議ヲ經ベシ

政府出資財產評價委員會ニ關スル規程ハ

勅令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ一般會計ニ屬スル國際電氣通信株

式會社ノ株式ヲ有償ニテ通信事業特別會

計ニ保管換ヲ爲ス株式ノ對

價タル支出金ハ通信事業特別會計ノ資本

勘定ノ歲出トシ其ノ株式ハ同特別會計ノ

資本所屬物件トス

〔國務大臣鹽野季彥君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鹽野季彥君)只今議題トナリ

マシタ國際電氣通信株式會社法中改正法律

案ノ提案理由ニ付テ御説明申上げマス、現

下内外ノ諸情勢並ニ東亞ニ於ケル電氣通信

ノ現状ニ鑑ミマズルニ、日滿支三國ノ國

防、政治、經濟及文化ノ緊密ナル互惠連繫ヲ

確保スルニ必要ナル東亞電氣通信網ヲ整備

致シマスコトハ、東亞ノ新秩序確立上、不

可缺且喫緊ノ一要目デアリマス、從ヒマシ

テ日滿支三國ノ主要都市ヲ連絡スル安固ニ

シテ堅牢ナル「通信ケーブル」急速ナル整備

ヲ企圖スルコトガ肝要デアリマシテ、之ガ

爲ニハ我國ノ適當ナル民間機關ヲシテ、

滿洲及支那ノ各通信事業經營機關ト緊密ナ

ル連繫ヲ保チツ、其ノ整備ニ當ラシムル

方策ヲ採ルコトガ必要デアリマス、即チ政

府ハ我國通信政策其ノ他諸般ノ事情ヨリ

見マシテ、現在對外電氣通信設備ノ建設保

守、外國ニ於ケル無線設備ノ貸付及工事ノ

請負等ヲ目的トシテ居リマスル國際電氣通

信株式會社ヲシテ、本整備ニ協力セシムル

コトガ最モ適當デアルト考ヘマシテ、今回

同會社ノ事業目的ヲ擴張致シマスルト同時

ニ、事業ノ圓滿正ナル遂行ヲ期スル爲、

一面會社ニ對スル政府ノ保護ヲ厚ウシ、他

面政府ノ監督權ヲ強化スル等ノ必要ヲ認メ

マシテ、本改正法律案ヲ提出シタ次第デア

リマス、何卒御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘ

ラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ

ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議

ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認

メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔丸龜書記官朗讀〕

國際電氣通信株式會社法中改正法律案特

別委員

公爵一條 實孝君 侯爵池田 宣政君

侯爵久我 通顯君 伯爵兒玉 秀雄君

男爵坂本 俊篤君 子爵松平 忠壽君

子爵舟橋 清賢君 予爵入江 爲常君

男爵淺田 良逸君 今井田清徳君

男爵飯田精太郎君 倉知 鐵吉君

遠藤 柳作君 小坂 順造君

稻畑勝太郎君 鈴木 幸作君

水野甚次郎君 上野喜左衛門君

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十七、船

員保險法案、政府提出、衆議院送付、第一

讀會、廣瀬厚生大臣

船員保險法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十六日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平頼壽殿

船員保險法案

第一章 總則

第一條 船員保險ニ於テハ被保險者又ハ

被保險者タリシ者ノ疾病、負傷、老齡、

重要ナル法築デアリマスルガ故ニ、其ノ

別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長

癱疾、脱退又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ

爲スモノトス

第二條 船員保險ハ政府之ヲ管掌ス

第三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員

ガ職務執行ノ對償トシテ船舶所有者ヨリ受クル給料及之ニ準ズベキモノヲ謂

フ

給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關

シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險

給付ノ額ヲ定ム場合ニ於テハ標準報酬

酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及

療養費、傷病手當金、癱疾手當金又ハ

死亡手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、癱疾年金、脫

退手當金又ハ第三十六條、第三十七條、第四十二條若ハ第四十九條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命

令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法

ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民法

ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 船員保險ニ關スル書類ニハ印紙

税ヲ課セズ

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベ

キ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者

ノ戶籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ

ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求
ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ヲシ
テ其ノ雇傭スル者ノ異動及報酬ニ關シ
ノ他船員保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ
行ハシムルコトヲ得

第十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命
令中船舶所有者トアルハ船舶共存ノ場
合ニ在リテハ船舶管理人、船舶貸借ノ
場合ニ在リテハ船舶借入人トス

第十一條 船舶が滅失又ハ沈没シタル際
現ニ其ノ船舶ニ乗組ム被保險者又ハ其
ノ船舶ニ乗組中被保險者ノ資格ヲ喪失
シ引續キ船舶内ニ在ル者ガ滅失又ハ沈
没ノ日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザ
ルトキハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ期間
満了ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス

船舶ノ存否ガ一月間分明ナラザルトキ
ハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ被保險者又ハ船舶ニ乘
組中被保險者ノ資格ヲ喪失シ引續キ船
舶内ニ在ル者ガ船舶航行中行方不明ト
爲リタル場合ニ於テ三月間生死分明ナ
ラザルトキニ之ヲ準用ス

第十二條 保険料ヲ滯納スル者アルトキ
ハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促
スベシ

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合
ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手
數料及延滞金ヲ徵收ス

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者
其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法
ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ行政
官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處
分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在
ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコ
トヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ
請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村
稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於
テハ行政官廳ハ徵收金額ノ百分ノ四ニ
相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スペ
シ

第十三條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收
金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之
ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公
課ニ先ツモノトス

第十四條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收
金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵
收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ
準用ス

第十五條 國、北海道、府縣、市町村其
ノ他ニ準ズベキモノノ所有ニ屬スル
船舶ニ乗組ム船員ニ關シテハ本法ノ適
用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコト
ヲ得

第十六條 本法中町村トアルハ町村制ヲ
施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキ
モノトス

第二章 被保險者

第十七條 船員法第一條ニ規定スル帝國
臣民タル船員ニシテ本法施行地ニ船籍

港ヲ定ムル船舶ニ乗組ムモノハ船員保
險ノ被保險者トス但シ左ニ掲グル者ハ
タルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由
ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格
此ノ限ニ在ラズ

一 船舶所有者ニ雇傭セラレザル者
二 官吏又ハ待遇官吏（俸給給料ヲ受
ケザル者ヲ除ク）

三 前二號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ
指定スル者

第十八條 被保險者ハ船舶ニ乗組ミタル
日、前條各號ノ規定ニ該當セザルニ至
リタル日又ハ日本ノ國籍ヲ取得シタル
日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十九條 被保險者ハ死亡シタル日、船
舶ニ乗組マザルニ至リタル日、第十七
條各號ノ規定ノ一ニ該當スルニ至リタ
ル日又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル日ノ翌
日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實
アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當ス
ルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資
格ヲ喪失ス

第六十條 十年以上十五年未滿被保險者
タリシ者ガ被保險者タラザルニ至リタ
ル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ
其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ

此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ
老齡又ハ脫退ニ關スル保險給付ニ限り
之ヲ爲スモノトス

第二十條 十年以上十五年未滿被保險者
タリシ者ガ被保險者タラザルニ至リタ
ル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ
其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ

此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ
老齡又ハ脫退ニ關スル保險給付ニ限り
之ヲ爲スモノトス

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者
タリシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者
者ハ第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タ
リシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者

タリシ期間トヲ合算シテ十五年ニ達シ
タルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由
ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格
ヲ喪失ス

第三章 保險給付

第一節 總則

第二十二條 被保險者タリシ期間ハ被保
險者ノ資格ヲ取得シタル月ノ前月ヲ

算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ
以テ終ル但シ十六日以後ニ於テ被保險
者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月ハ

半月トシテ之ヲ計算ス

十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪
失シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ其
ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ
期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其
ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給

付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者
タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ脱退手當
金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ
計算ノ基礎ト爲リタル期間ハ之ヲ合算
セズ

前項但書ノ規定ハ第四十九條ノ規定ニ
依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ
準用ス

第二十三條 第三十六條、第三十七條若

ハ第四十二條ノ規定ニ依ル一時金又ハ
死亡手當金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順

位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 養老年金及療疾年金ノ支給
ハ之ヲ支給スペキ事由ノ生ジタル月ノ

翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ
終ル

第二十五條 政府ハ事故ガ第三者ノ行爲
ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保険給付

ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限
度ニ於テ保険給付ヲ受クベキ者ガ第三

者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利
ヲ取得ス

第二十六條 保険給付トシテ支給ヲ受ケ
タル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公
課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ

限ニ在ラズ

第二十七條 保険給付ヲ受クル權利ハ之
ヲ譲渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第二節 療養ノ給付又傷病手當
金

第三十一條 診療所ニ收容シタル被保險
シ者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ勅令ノ

定ムル所ニ依リ療養ノ給付ヲ爲ス但シ
被保險者ノ資格喪失前ノ疾病又ハ負傷

ニ因リ發シタル疾病ヲ除クノ外被保險
者ノ資格喪失後ニ發シタル疾病又ハ負
傷ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ報酬年額千八百圓ヲ超ニ
ル船舶職員、被保險者ノ資格喪失當時
報酬年額千八百圓ヲ超ニル船舶職員タ
リシ者及勅令ヲ以テ指定スル者ノ疾病
又ハ負傷ニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト

認ムルトキハ被保險者又ハ被保險者タ
リシ者ヲ診療所ニ收容スルコトヲ得

第二十九條 療養ノ給付ヲ爲シ得ル期
ナル場合又ハ被保險者若ハ被保險者タ
リシ者ノ申請アリタル場合ニ於テハ勅
令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘ

テ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第三十條 被保險者タリシ者左ノ各號ノ
一一該當スル場合ニ於テ療養ノ爲勞務
ニ服スルコト能ハザルトキハ其ノ期間
傷病手當金トシテ一日ニ付被保險者ノ
資格喪失當時ノ報酬日額ノ百分ノ六十
ニ相當スル金額ヲ支給ス

一 療養ノ給付ヲ受クルトキ

二 船員法第十七條又ハ第二十九條ノ
規定ニ依リ船舶所有者ヨリ疾病又ハ
負傷ニ關シ扶助ヲ受クルトキ

第三十二條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合
ニ之ヲ準用ス

第三十三條 船員法第十七條又ハ第二十
九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ扶助
又ハ手當ノ支給ヲ受クル被保險者又ハ

被保險者タリシ者ノ疾病又ハ負傷ニ關
シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受ク
ルコトヲ得ベキ期間經過後療養ノ給付
又ハ傷病手當金ノ支給ヲ開始ス

第三節 養老年金

第三十四條 十五年以上被保險者タリシ
者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ
超エタルトキ又ハ五十歳ヲ超エ其ノ資
格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ
至ル迄養老年金ヲ支給ス

第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タ
リシ期間十五年以上十六年未満ニ對シ
被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額
ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被

保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ增
ス每ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ
全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一一相

當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受クル者
ガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケ

タル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年
分ニ相當スル金額ニ満タザルトキハ其ノ
差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

シテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ
支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年
金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金ト

第三十七條 十五年以上被保險者タリシ
者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナク
シテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ

支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年
金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金ト

第三十八條 傷病手當金又ハ船員法第十
七條若ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶
所有者ヨリ手當ノ支給ヲ受クル者ニハ
命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコト
ヲ得ベキ期間養老年金ノ支給ヲ停止ス

第三十九條 養老年金ノ支給ヲ受クル者
被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ
養老年金ノ支給ヲ停止ス

第四節 療疾年金及療疾手當金

保険給付ヲ始メタル日前勅令ノ定ムル
期間引續キ被保險者タリシ者ニ限ル
傷病手當金ハ其ノ支給期間ヲ經過セザ
ルトキト雖モ療養ノ給付ヲ爲シ得ル期
間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支
給セズ

第三十三條 船員法第十七條又ハ第二十
九條ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ扶助
シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受ク
ルコトヲ得ベキ期間經過後療養ノ給付
又ハ傷病手當金ノ支給ヲ開始ス

第三十四條 十五年以上被保險者タリシ
者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ
超エタルトキ又ハ五十歳ヲ超エ其ノ資
格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ
至ル迄養老年金ヲ支給ス

第三十五條 養老年金ノ額ハ被保險者タ
リシ期間十五年以上十六年未満ニ對シ
被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額
ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被

保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増
ス每ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ
全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一一相

當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第三十六條 養老年金ノ支給ヲ受クル者
ガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケ

タル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年
分ニ相當スル金額ニ満タザルトキハ其ノ
差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

シテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ

支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年
金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金ト

第三十七條 十五年以上被保險者タリシ
者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナク
シテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ

支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年
金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金ト

第三十八條 傷病手當金又ハ船員法第十
七條若ハ第二十九條ノ規定ニ依リ船舶
所有者ヨリ手當ノ支給ヲ受クル者ニハ
命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコト
ヲ得ベキ期間養老年金ノ支給ヲ停止ス

第三十九條 養老年金ノ支給ヲ受クル者
被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ
養老年金ノ支給ヲ停止ス

第四節 療疾年金及療疾手當金

第四十條 被保險者ノ資格喪失前六年間
失前ニ發シタル疾病又ハ負傷及之ニ因
リ發シタル疾病カ勅令ノ定ムル期間内
ニ治癒シタル場合又ハ治癒セザルモ其

ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル程度ノ癒疾ノ状態ニ在ル者ニハ其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄癒疾年金ヲ支給シ又ハ一時金トシテ癒疾手當金ヲ支給ス

第四十一条 癒疾年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分の一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第三十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

癒疾手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ニ相當スル金額トス

第四十二条 癒疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第四十二條 癒疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

ナル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癒疾年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脫退手當金及被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ノ合算額（被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ十三ヶ月分ニ止ム）ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

二 被保險者タリシ期間が十五年以上

ナル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癒疾年金ノ總額ガ癒疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額
第四十三條 養老年金及癒疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一ヲ支給ス
第四十四條 癒疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ癒疾年金ヲ受クル程度ノ癒疾ノ状態ニ該當セザルニ至リタルトキハ爾後癒疾年金ヲ支給セズ

第四十五條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ癒疾手當金ヲ支給セズ

第五節 脱退手當金

第四十六條 三年以上十五年未滿被保險者タリシ者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年六月ヲ經過シタルトキハ脱退手當金ヲ支給ス但シ其ノガ癒疾手當金ヲ受クル權利ヲ有スルトキハ一年六月ヲ經過セザル場合ト雖モ之ヲ支給ス

第四十七條 脱退手當金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル但シ癒疾手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スベキ額ハ癒疾手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 被保險者タリシ期間三年以上四年未滿ナル者ニ對シテハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ一月半分ニ相當スル金額

二 被保險者タリシ期間四年以上九年未滿ナル者ニ對シテハ其ノ期間三年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ半月分ニ相當スル金額ヲ加ヘタル

三 被保險者タリシ期間九年以上ナル者ニ對シテハ其ノ期間八年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ規定ニ依リ其ノ期間八年以上九年未滿ノ者ノ支給ヲ受クベキ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ一月分ニ相當スル

三 被保險者タリシ期間九年以上ナル者ニ對シテハ其ノ期間八年以上一年ヲ増ス毎ニ前號ノ規定ニ依リ其ノ期間八年以上九年未滿ノ者ノ支給ヲ受クベキ金額ニ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ一月分ニ相當スル

二 被保險者タリシ者ガ其ノ資格喪失シ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ療養ノ給付又ハ傷病手當金、癒疾年金、癒疾手當金若ハ死亡手當金ノ支給ヲ爲シタルトキハ付ヲ受クルモノガ死亡シタルトキ

三 被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付ヲ受クルモノガ死亡シタルトキ

第七節 保険給付ノ制限

第四十八條 癒疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脱退手當金ヲ支給セズ
第四十九條 癒疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第四十四條ノ規定ニ依リ癒疾年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癒疾年金ノ總額ガ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金ノ額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第五十条 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三月分ニ相當スル死亡手當金ヲ支給ス但シ其ノ金額万百圓ニ満タザルトキハ之ヲ百圓トス

第五十一条 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ其ノ期間療養ノ給付又ハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十二条 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ鬪争、泥醉若ハ著シキ不行跡ニ因リ、故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ傷病手當金、癒疾年金又ハ癒疾手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十三条 被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ三年以上被保險者タリシトキハ其ノ遺族ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三月分ニ相當スル死亡手當金ヲ支給ス但シ其ノ金額万百圓ニ満タザルトキハ之ヲ百圓トス

一 被保險者タリシ期間三年以上四年未滿ナル者ニ對シテハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ一月半分ニ相當スル金額

二 被保險者ガ死亡シタルトキ

一、陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二、本法施行地外ニ在ルトキ

三、船舶内ニ在ルトキ

四、矯正院其ノ他之ニ準ズベキモノニ

入院セシメラレタルトキ

五、監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又

ハ留置セラレタルトキ

六、健康保険又ハ職員健康保険ニ於テ
之ニ相當スル保険給付ヲ受クルトキ
他ノ法令ニ依リ國又ハ公共團體ニ負擔
ニ於テ診療所ニ收容セラレタル者ニ對
シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ
第三十一條ノ規定ハ前項ニ掲タル者ニ
之ヲ準用ス

第五十四條 正當ノ理由ナクシテ療養ニ

關スル指揮ニ從ハザル者ニ對シテハ傷
病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十五條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依
リ保険給付ヲ受ケ又ハ受ケントシタル
者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期
間ヲ定メ保険給付ノ全部又ハ一部ヲ爲
サザルコトヲ得

第五十六條 療養ノ給付又ハ傷病手當金
若ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必
要アリト認ムルトキハ診斷ヲ行フコト
ヲ得

正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケ
ザル者ニ對シテハ療養ノ給付ノ全部若
ハ一部又ハ傷病手當金、廢疾年金若ハ
廢疾手當金ノ全部若ハ一部ノ支給ヲ爲
サザルコトヲ得

第五十七條 養老年金又ハ廢疾年金ヲ受
クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其
ノ身分關係ノ異動及廢疾状態ノ繼續ノ
有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類

ヲ提出セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者
ニ對シテハ養老年金又ハ廢疾年金ノ支
給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第四章 費用ノ負擔

第五十八條 國庫ハ療養ノ給付及傷病手
當金ヲ除クノ外保険給付ニ要スル費用
ノ五分ノ一ヲ負擔ス

國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度
豫算ノ範圍内ニ於テ船員保険事業ノ事
務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第五十九條 政府ハ船員保険事業ニ要ス
ル費用ニ充ツル爲保険料ヲ徵收ス

保険料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第六十條 被保險者及被保險者ヲ雇傭ス
ル費用ニ充ツル爲保険料ヲ徵收ス

保険料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第六十一條 船舶所有者ハ各保険料額ノ二分ノ一
ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依ル被
保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十二條 船舶所有者ハ其ノ雇傭スル
被保險者ノ負擔スペキ保険料ヲ納付ス
ル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依
ル被保險者ノ負擔スル保険料ニ付テハ
此ノ限ニ在ラズ

第六十三條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スペキ
保険料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨ

リ控除スルコトヲ得

第五章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第六十三條 保険給付ニ關スル決定ニ不
服アル者ハ第一次船員保険審査會ニ審
査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ
ヲ提出セシムルコトヲ得

第二次船員保険審査會ニ審査ヲ請求シ
其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所
ニ訴テ起訴スルコトヲ得
前項ノ審査ノ請求ハ时效ノ中斷ニ關シ
ニ訴テ起訴スルコトヲ得
第四章 費用ノ負擔

第五十八條 國庫ハ療養ノ給付及傷病手
當金ヲ除クノ外保険給付ニ要スル費用
ノ五分ノ一ヲ負擔ス

國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外毎年度
豫算ノ範圍内ニ於テ船員保険事業ノ事
務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第五十九條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵
收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十二
條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主
務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得

第六十條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵
收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願
ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二
次船員保険審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ
爲スベシ

第六十一條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條 關東州船員令ニ依ル船員タ
リシ者ガ被保險者ト爲リタル場合又ハ
被保險者タリシ者ガ關東州船員令ニ依
ル船員ト爲リタル場合ノ保険給付ニ關
シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコト
ヲ得

第六十三條 本法施行ノ期日ハ保険給付及費用ノ負擔
ニ關スル規定竝ニ其ノ他ノ規定ニ付各別
ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵
收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十二
條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主
務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得

第六十五條 保険料其ノ他本法ニ依ル徵
收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願
ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ第二
次船員保険審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ
爲スベシ

第六十六條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ
訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知
又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三
十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ
於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條
第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民
事訴訟法第百五十八條第二項及第百五
十九條ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 第六章 罰則

違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲
シ又ハ文書ノ提示ヲ爲サザル者ハ百圓

以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 船舶所有者ハ其ノ代理人、
戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從
業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲
ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザ
ルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ
得ズ

第七十條 第六十八條ノ罰則ハ其ノ者が
法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ
法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年
者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代
理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年
者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付
テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十一條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行
スル場合ニ於テ必要ナル規定ハ勅令ヲ
以テ之ヲ定ム

第七十二條 關東州船員令ニ依ル船員タ
リシ者ガ被保險者ト爲リタル場合又ハ
被保險者タリシ者ガ關東州船員令ニ依
ル船員ト爲リタル場合ノ保険給付ニ關
シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコト
ヲ得

第七章 雜則

第七十一條 本法ヲ朝鮮又ハ臺灣ニ施行
スル場合ニ於テ必要ナル規定ハ勅令ヲ
以テ之ヲ定ム

第七十二條 關東州船員令ニ依ル船員タ
リシ者ガ被保險者ト爲リタル場合又ハ
被保險者タリシ者ガ關東州船員令ニ依
ル船員ト爲リタル場合ノ保険給付ニ關
シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコト
ヲ得

第七十三條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十六條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十八條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十九條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十一條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十二條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十六條 本法ニ規定スルモノノ外船
員保険審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

キ資格ヲ有スル船員トシテ五年以上船上ニ乗組ミタル者ガ四十五歳ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ同日前十五年間ニ於テ船舶ニ乗組ミタル期間ト被保險者タリシ期間トヲ合算シ十五年以上ニ達スルモ十五年以上被保險者タリシ者ニ非ザルトキハ其ノ者ニ對スル脫退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十六條及第四十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

〔國務大臣廣瀬久忠君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(廣瀬久忠君) 只今議題トナリ

マシタ船員保険法案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、抑々海運業ハ產業ノ發展、資源ノ開

發、貿易ノ隆昌、國際收支ノ改善等ノ諸點

ヨリ觀察シマシテ、我ガ國力ノ伸張上重要

ナル地位ヲ占ムルバカリデナク、一朝有事

ニ際シマシテハ四面環海ノ我ガ國ニ於テ

ハ、重大ナル軍事的任務ニ服スルモノデア

リマシテ、之ヲ國防上ノ見地ヨリ致シマシ

テモ、其ノ重要性ガ一層認識セラレルノデ

アリマス、海運業ノ發展ヲ期スル爲ニハ重

要航路ノ開拓、優秀船舶ノ保持ヲ必要トス

ルコト勿論デアリマスガ、更ニ之ガ運行ノ

衝ニ當ルベキ船員ニ優秀ナル者ヲ得テ、永

ク安ンジテ其ノ職務ニ精勵セシムルコトガ

最モ緊要デアルト確信スル次第デアリマス、

然ルニ船員生活ノ實際ニ就テ見マスルニ、

其ノ不自由ナル海上生活ニ經濟上ノ苦痛及退職後ニ於ケル生活不安

等陸上勤務者ニ見ルコトノ出來ナイ幾

多ノ不利不便ヲ伴フコトヲ免レナインデア

リマス、從ツテ動モスレバ陸上勤務ノ職業

ニ轉向セムトスル傾向ヲ示シテ居ルノデア

リマス、斯クノ如キ現象ハ我國海運業ノ

隆昌ヲ期スル上ニ於テ誠ニ遺憾ニ堪ヘナ

所デアリマシテ、斯カル見地ヨリ致シマシ

テ、以上述ペマシタ如キ船員生活ニ於ケル不

安ヲ除去スルニ必要ナル國家の保護施設ノ

整備ヲ圖リ、以テ船員ヲシテ其ノ職務ニ專

念セシムルヤウニ致シマスルコトハ、海運

政策上ヨリ見マシテモ、將又現下ノ時局ニ

鑑ミマシテモ、誠ニ急務デアルト言ハナケ

レバナラナインデアリマス、以上ノ理由ニ

依リマシテ、今回政府ハ船員ノ老後ニ於ケ

ル生活ノ安定ヲ圖リ、優秀ナル船員ヲシテ

安ンジテ永ク其ノ職務ニ從事セシメ、併セ

テ其ノ疾病傷痍竝ニ廢疾ニ對スル保護ヲナ

ムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ

船員保険法案ハ、關聯スル所ガゴザイマス

ルガ故ニ、職員健康保険法案ノ特別委員ニ

併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議

ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

院送付、第一讀會、八田商工大臣

帝國鑄業開發株式會社法案

テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因

昭和十四年三月十六日

ヲ得ズ

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

第二章 役員

(小字ハ衆議院ノ修正ナリ)

第七條 帝國鑄業開發株式會社ニ社長副

社長各一人、理事三人以上及監事二人

以上ヲ置ク

帝國鑄業開發株式會社法案

第一章 總則

第一條 帝國鑄業開發株式會社ハ重要鑄

物(金鑄及砂金ヲ除ク以下之ニ同ジ)ノ

資源ノ開發ヲ促進シ其ノ増産ヲ

必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル

株式會社トス

第二條 帝國鑄業開發株式會社ハ其ノ本

店ヲ東京市ニ置ク

帝國鑄業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ

受ケ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條 帝國鑄業開發株式會社ノ資本ハ

三千萬圓トシ内千五百萬圓ハ政府ノ出

資トス

帝國鑄業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ

受ケ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第四條 帝國鑄業開發株式會社ノ株式ハ

記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民

又ハ帝國法人ニ限り之ヲ所有スルコト

ヲ得

第五條 帝國鑄業開發株式會社ノ存立期

間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス但シ政

府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第六條 帝國鑄業開發株式會社ニ非ザル

モノハ帝國鑄業開發株式會社又ハ之ニ

類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコト

ニ在ラズ

第十條 社長、副社長及理事ハ他ノ職務又

ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ

認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 帝國鑄業開發株式會社ハ左ノ

第三章 營業

事業ヲ營ムモノトス
一 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業（砂鑄業ヲ含ム以下之ニ同ジ）
二 重要鑄物ニ關スル鑄床ノ調査
三 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業ニ對スル技術ニ關スル指導
四 重要鑄物ノ賣買又ハ其ノ斡旋
五 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業又ハ製鍊業ノ爲必要ナル器具、機械、材料又ハ設備ノ賣買
六 重要鑄物ヲ目的トスル鑄業又ハ製鍊業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資
帝國鑄業開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十六條 鑄業開發債券ハ無記名式トス
但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得
第十七條 鑄業開發債券ノ所有者ハ帝國鑄業開發株式會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス
第十八條 帝國鑄業開發株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十三條ノ制限ニ依ラズ鑄業開發債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊鑄業開發債券ヲ償還スベシ
第五章 準備金

第十九條 帝國鑄業開發株式會社ハ毎營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 監督及助成
第十四章 鑄業開發債券
第十三條 帝國鑄業開發株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限リ鑄業開發債券ヲ發行スルコトヲ得
鑄業開發債券ヲ發行スル場合ニ於ケル株主總會ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十五條 鑄業開發債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ
第十六條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ヲ監督ス
第二十一條 帝國鑄業開發株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ
第二十二條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クベシ
第十七條 鑄業開發債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ
第十八條 帝國鑄業開發株式會社ハ毎營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ得此ノ場合ニハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第十九條 帝國鑄業開發株式會社ノ營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ
第二十條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ヲ監督ス
第二十一條 帝國鑄業開發株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ
第二十二條 帝國鑄業開發株式會社監理官ハ株主總會其ノ他者般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 帝國鑄業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲が法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十四條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ重要鑄物ノ增産上必前項ノ規定ニ依リ重要鑄物ノ增産上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十五條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十六條 帝國鑄業開發株式會社監理官ハ何時ニテモ帝國鑄業開發株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

第二十七條 政府帝國鑄業開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲が法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 帝國鑄業開發株式會社ハ毎

第二十九條 帝國鑄業開發株式會社ノ營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スルニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間ヲ限り之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ初營業年度ヲ除キ毎營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル額並ニ當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル鑄業開發債券及借入金ノ利息額ノ合計額ヲ超ニルコトヲ得ズ

第三十條 政府ハ帝國鑄業開發株式會社ノ營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先づ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

第三十一條 政府帝國鑄業開發株式會社ノ初營業年度及爾後五年間ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第三十二條 政府帝國鑄業開發株式會社ノ第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ其ノ前項ノ拂込ミ

タル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ
超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看
做ス

前一項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年
度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金
ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益
金ト看做ス

第三十條 帝國鑛業開發株式會社ノ每營
業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額
ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込
ミタル株金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合
ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ
所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合
ヲ超ニ利益配當ヲ爲サントスルトキハ
其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總
株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一
ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有
スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ
所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對
シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベ
シ

第三十一條 帝國鑛業開發株式會社ニハ
命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ
翌年ヨリ十年間其ノ事業ニ付所得稅及
營業收益稅ヲ免除ス

第三十二條 北海道、府縣及市町村其ノ
他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依
リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタ
ル期間帝國鑛業開發株式會社ノ事業ニ
對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特
別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル
場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 罰則

第三十三條 帝國鑛業開發株式會社左ノ
各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社
長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社長ヲ
五千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又ハ理
事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長又ハ
理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ
於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第十一條ノ規定ニ依ラズシテ業務
ヲ營ミタルトキ

三 第十三條ノ規定ニ違反シ鑛業開發
債券ヲ發行シタルトキ

四 第十八條ノ規定ニ違反シ鑛業開發
債券ノ償還ヲ爲サザルトキ

五 第二十四條ノ規定ニ基キテ爲シタ
ル命令ニ違反シタルトキ

府ノ認可ヲ受クベシ
○國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル
立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベ
キ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株
主ヲ募集スペシ

第四十一條 株式申込證ニハ定款認可ノ
年月日並ニ商法第百二十六條第二項第
二號、第四號及第五號ニ規定スル事項
ヲ記載スベシ

第四十二條 設立委員株主ノ募集ヲ終リ
タルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ
其ノ検査ヲ受クベシ

第四十三條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受
タル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂
込ヲ爲サシムベシ

第四十四條 創立總會ニ於テハ第九條ノ
前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ
遲滞ナク創立總會ヲ招集スペシ

第四十五條 創立總會終結シタルトキハ
設立委員ハ其ノ事務ヲ帝國鑛業開發株
式會社社長ニ引渡スベシ

第四十六條 本法施行ノ際帝國鑛業開發
株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商
號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以内ニ
其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條 登錄稅法第六條第一項第十
一號中「又ハ產金振興債券」ヲ「產金振
興債券又ハ鑛業開發債券」ニ改ム

（國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル）
○國務大臣（八田嘉明君）只今議題トナリ
マシタ帝國鑛業開發株式會社法案ノ提案理
由ヲ御説明申上ダマス、銅、鉛、亞鉛、錫等ヲ
初メ各種ノ所謂重要鑛物ハ茲ニ事新ラシク
申上ゲル迄モナク、國防上並ニ產業上極メテ重
要デル事柄デアルノアリマス、翻ツテ我が
國ニ於ケル是等重要鑛物ノ需給狀態ニ付テ
見マスルニ、今次ノ支那事變發生以來、其
ノ需要ノ增加ハ特ニ著シキモノガアリ、是
等重要鑛物ノ國內生產ノ增加ハ能ク之ニ追
隨シ得ザルノ實情ニアルノアリマス、政
府ニ於キマシテハ諸般ノ情勢ニ鑑ミ、昨年
第七十三回帝國議會ノ御協賛ヲ經マシテ、政
重要鑛物增産法ヲ制定施行シ、之ヲ樞軸ト
致シマシテ重要鑛物ノ增産促進ニ關スル種
種ノ方策ヲ實施シテ居ル次第アリマス
ガ、何分ニモ之ガ需要ノ增加ハ極メテ急激
ナルモノデアリマシテ、斯カル實情ニ即應
シ、併セテ長期建設ノ將來ニ備ヘムガ爲ニ
ハ、更ニ新タナル増産達成ノ方策ヲ樹立シ、
速カニ之ヲ實施シテ、是等重要鑛物供給ノ
增加ニ努ムルコトガ不可缺ノ要務デアルト
認メラレルノデアリマス、而シテ是等重要
鑛物ノ增産實現ノ方策ト致シマシテハ色々
考へ得ラレルノデアリマスガ、先づ第一ニ
本邦ニ於ケル是等鑛物資源ノ賦存狀態ヨリ
見マシテ、所謂休眠區鑛區ノ積極的開發ヲ
促進致シマスルト共ニ、低品位ノ鑛石ノ活
用ヲ實現致シマスコトガ、有效且緊要ナル
事柄デアルト存ズルノデアリマス、今日各
鑛山ニ於キマシテハ、極力其ノ生産力ノ擴
充ニ努メツ、アルノデアリマシテ、此ノ方

第三十六條 非訟事件手續法第二百六條
乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料
ニ付拂込アリタルトキハ之ヲ准用ス

附 則

第三十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第三十八條 政府ハ設立委員ヲ命ジ帝國
鑛業開發株式會社ノ設立ニ關スル一切
ノ事務ヲ處理セシム

第三十九條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政

面カラ大イニ増産ヲ期待シテ居ルノデアリ
マスルガ、是ト同時ニ其ノ數ニ於テ極メテ
多數ニ上ツテ居リマスル所謂休眠鑛區ノ活
動ヲ促シ、又多量ニ埋藏セラレテ居リマス
ル低品位鑛石ノ利用ヲ圖リマスコトハ、我
ガ國ノ實情ト致シマシテハ、何ト致シマシ
テモ之ヲ實施シナケレバナラヌコトデアル
ト考ヘルノデアリマス、又今後是等ノ不足
重要鑛物ノ增産ヲ確保致シテ參リマスル爲
ニハ、鑛物ノ生産上缺クベカラザル具體的
ナル探鑛、試錐等ノ鑛床調査ニ關スル事項
ニ付キマシテ、十分力ヲ致スコトガ絶対ニ
必要デアルト存ジマス、即チ國家ノ施設ニ
竝行シテ探鑛、調查等ヲ汎ク行ツテ、以テ國內
鑛物資源ノ遺憾ナキ利用ニ資スルコトガ緊
要デアルト存ズルノデアリマス、以上ノ外當
面ノ是等重要鑛物ノ飛躍的ニ需要增加ニ對
處致シマシテ、生産ノ増加ヲ圖シテ參リマス
ル爲ニハ、鑛石ノ取引條件等ニ一層ノ公明
化二期シ、或ハ鑛物増產計畫ノ遂行上必要
ナル資金ノ調達ニ便宜ヲ圖リ、其ノ他特ニ
中小鑛山ニ於ケル作業能率ノ向上ニ努ムル
等ノ事柄ヲ實現致サナケレバナラヌト考ヘ
ルノデアリマス、併シナガラ是等ノ事業ハ、
其ノ性質上何レモ公正ナル國家的ノ機關ニ
依ツテ經營セラレルコトガ必要デアルノデ
アリマシテ、之ヲ單ナル民間ノ企業ニ期待ス
ルコトハ不可能デアルト思料セラレルノデア
リマス、是レ茲ニ新タニ法律ニ依リ、半官半
民ノ特殊會社タル帝國鑛業開發株式會社ヲ
設立シテ、是等ノ事業ニ當ラシメムトスル
所以デアリマス、即チ本會社ノ設立ハ、現
在及將來ノ時局ニ於キマシテ、最モ緊要ナ
ル銅、鉛、亞鉛、錫其ノ他ノ所謂非鐵金屬
ノ增產達成上、必要缺グベカラザル事柄デ

アルト信ズルモノデアリマス、何卒御審議
ノ上御協賛アラムコトヲ希望致シマス
○子爵戸澤正己君 只今議題ニナリマシタ
ガゴザイマスルガ故ニ、輕金屬製造事業法
案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ
提出致シマス
○子爵秋田重季君 贊成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス
○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第十九、大
正九年法律第五十三號中改正法律案、政府
提出、衆議院送付、第一讀會、八田拓務大臣
提出
大正九年法律第五十三號中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十六日
貴族院議長伯爵松平頼壽殿
大正九年法律第五十三號中改正法律案
大正九年法律第五十三號中左ノ通改正ス
第二條第九號ヲ第十號トシ同條第八號ノ
次ニ左ノ一號ヲ加フ
九 國境河川ニ跨ル橋梁、水力發電設
備其ノ他ノ設備ニシテ朝鮮總督ノ定
ムルモノノ建設又ハ修繕ニ要スル材
料竝ニ其ノ設備ニシテ朝鮮總督
及其ノ部分品、附屬品但シ朝鮮總督
ノ指定シタルモノニ限ル
附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

大正九年法律第五十三號ハ關稅法關稅
定率法及保稅倉庫法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル法律ナリ
〔國務大臣八田嘉明君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(八田嘉明君) 只今上程ニナリ
マシタ、大正九年法律第五十三號、關稅法、
關稅定率法、保稅倉庫法及假置場法等ノ朝
鮮ニ於ケル特例ニ關スル法律中改正法律案
ニ付御説明申上ダマス、滿洲國ノ建國以來、
同國內ノ治安ハ漸次確保セラル、ニ至リ
マシタガ、之ニ伴ヒ日滿陸接國境ヲ經由ス
ル交通ノ利便ヲ圖リ、日滿陸接國境地帶ニ
於ケル資源ヲ開發シ、以テ日滿兩國ノ經濟
提携ヲ一層強化スルノ緊要ナルコトハ、今
更申上ダル迄モナニ次第デアリマス、此ノ
見地ニ基キマシテ、日滿國境河川タル鴨綠
江及園門江ニ於キマシテ、日滿兩國ノ協
力ニ依リ、目下各地ニ橋梁ノ架設其ノ他ノ
工事ヲ進メツ、アル次第デアリマス、然ル
ニ是等ノ設備ハ其ノ性質上、國境河川ニ
跨ツテ構築セラレマス關係上、之ガ構築材料
等ニ付複雜ナル輸出入ノ關係ヲ生ズル次第
デアリマスガ、是等設備ノ構築ノ趣旨等ニ
鑛ミマシテ、之ガ構築材料等ニ對スル輸入
稅ヲ免除スルヲ必要ト認メマシテ、本案ヲ
提出致シマシタ次第デアリマス、何卒宜シ
ク御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希
望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題ニナリマシタ
大正九年法律第五十三號中改正法律案ハ、
是亦關聯致シマスルガ故ニ、朝鮮事業公債
法中改正法律案外一件ノ特別委員ニ併託セ
ラレムコトノ動議ヲ提出致シマス
○子爵秋田重季君 贊成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス
○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第二十、鑛
業法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、
第一讀會ノ續、委員長報告、委員長秋田子
爵
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也
昭和十四年三月十四日
貴族院議長伯爵松平頼壽殿
〔子爵秋田重季君演壇ニ登ル〕
○子爵秋田重季君 只今議題ニナリマシタ
鑛業法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結
果ヲ御報告申上ダマス、委員會ハ去ル十日、
十一日、十四日ノ三日間ニ瓦リマシテ開會
ヲ致シマシタ、先ツ當局カラ改正案ノ趣旨
ニ付キマシテ説明ガアリマシタ、其ノ内容
ハ過日本會議ニ於ケル大臣ノ説明ト同様デ
アリマシタガ、要スル所今回ノ改正案ハ、
從來ノ鑛業法中ニ鑛害ノ賠償ノ條項ヲ新タ
ニ十六箇條ト附則ノ一章が設ケラレルモノ
デアリマス、其ノ條項ノ内容ハ、一般鑛物
ノ鑛害ニ關スル條項二箇條、石炭採掘ノ場
合ノ鑛害ニ關スルモノ四箇條、賠償規定ニ
三箇條、其ノ他二箇條トナツテ居リマス、
ソレニ附則トカラナツテ居ルノデアリマシ

官報號外

昭和十四年三月十八日 賴族院議事速記録第一四號

大正九年法律第五十三號中改正法律案 第一讀會 鑛業法中改正法律案

三三七

アリマス、委員會ノ質疑應答ハ多岐ニ亘ツテ
爲サレタノデアリマスルガ、茲ニハ其
ノ主ナルモノヲ御紹介申上ゲマシテ、他ハ
速記錄ヲ御覽願ヒタイト存ジマス、御了承
ヲ願ヒマス、先づ第一ニ根本的ノ問題ノ質
問ガアリマシテ、本法案ノ制定ノ趣旨、即
チ言換ヘレバ本法案ヲ制定シナケレバ、鑛
害賠償ノ請求ハスルコトガ出來ナイノデア
ルカト云フ問ニ對シマシテ、今日迄、實際
上ニハ賠償ノ支拂ヲシテ來タガ、法律上鑛
業權者ニ賠償ノ義務アリヤ否ヤト云フ問題
ハ、鑛害ノ大部分ハ民法ノ所謂不法行爲ニ該
當シナイ、即チ違法性或ハ故意過失トハ異ツ
テ居ルカラデアリマス、仍テ此ノ際特別法
ヲ制定シテ、賠償ノ義務ヲ立法的ニ明確ニセ
ムトスルノデアリマスト云フ答デアリマス、
第一ニハ、產業經營ニ伴フ損害ノ發生ハ、
獨リ鑛業ニ限ラズシテ、現ニ化學工業等ニ
於テモ著シキモノガアルガ、鑛業ノミニ賠
償規定ヲ認ムルノハ如何ト云フ問ニ對シマ
シテ、鑛業ハ元來地下作業ヲ主體トスルモ
ノナルヲ以テ、鑛害ハ鑛業ニ必然的ニ伴フ
宿命ヲ有スルモノト言ヒ得ルノデアル、如
何ニ豫防方法ヲ講ズルモ、其ノ發生ヲ免レ
ザル部分ガ少クナインデアル、而シテ一般
工業ヨリ其ノ程度竝ニ範圍ニ於テ比較ニハ
ナラナイノデアル、一般工業ニ關シテハ、
鑛業法ノ一部トシテ考慮セラレルノデアル、
ト思フト云フ答辭デアリマシタ、次ニ條文
ノ附則ニ關スル質問デアリマス、過去ノ損
害ニ付テモ、改メテ賠償ヲ爲サシムルハ行
實情ニ即シテ別箇ニ考究スベキ問題デアル
過ギテハ居ナイカト云フ質問ニ對シマシテ、

從來長年ニ瓦ル賠償ノ慣行ニ對シテ、法的秩序ヲ與フルコトトシタノデアルガ、今日迄何等ノ法制ナキ爲ニ、此ノ慣行ニ反シテ思フ、尙此ノ賠償ハ損害發生當時ノ鑛業權者ニ限ラレテ居ルカラ、大多數ノモノハ既ニ相當賠償ヲシテ居ルカラ、此ノ問題ハ極ク小範圍デアルト考ヘルト云フ答デアリマシタ、次ハ供託金ハ鑛山毎ニ決定スルモノヤウデアリマスガ、如何ナル方法デ決定スルヤ、之ニ對シマシテ、鑛山ノ地形、地目、採掘方法及可採數量ヲ調査シ、其ノ可採炭量ヲ掘採シ終ル迄ニ生ズベキ損害總額ヲ算定シ、之ヲ可採炭量ニテ除シ、應當供託金額ヲ決定スル方針デアルト云フ答デアリマシタ、次ニハ本法案ノ運用ハ、結局調停委員會ノ人選如何ニアリト思料スルガ、當局ノ用意如何ト云フ質問ニ對シマシテハ、本法案ニ於テハ他ノ立法例ト異リ、特ニ第七十四條ノ十三ニ於テ「調停委員ハ特別ノ知識經驗ヲ有シ公正ナル調停ヲ爲スニ適スル者」斯ウ云フ中ヨリ之ヲ選任スル旨ヲ明カニシテアルノデアル、實際ノ運用ニ當テハ本件ノ複雜性ニ鑑ミ、特ニ其ノ人選如何ニ關シテハ慎重ナル考慮ヲ拂フコト致シタイト云フ答辯デアリマス、ソレカラモウ一ツハ一般ニ關スル問題デアリマスルガ、重要ト存ジマシテ茲ニ御紹介ヲ申上ゲマス、商工省ニ於テハ種々ノ商品ニ對シ積極的ニサザルカト云フ質問ニ對シマシテ、戰時體制下ニ於ケル國民經濟ノ圓滑ナル運行ヲ圖

リ、一般産業ノ生産力擴充ヲ確保セムガ爲ニハ、其ノ原動力タル石炭ノ價格ヲ引下
ゲルコトハ喫緊ノ要務デアルト認メマシテ、昭和十三年九月一日、昭和石炭株式會
社ニ對シ命令ヲ發シテ、一、炭種別標準販賣價格ノ決
定、二、消費地ニ於ケル標準販賣價格ノ引下、
價格ノ廻當一圓五十錢乃至九十錢ノ引下、
二、消費地ニ於ケル標準販賣價格ノ決
定、三、前二者ノ種類別公表ヲ實行セシメ、同時ニ昭和石炭株式會社以外ノ者ニ對
シテハ、之ニ準ゼシムルコトシタノデアル、斯ウ云フ
ル、小賣價格ニ對シテハ中央物價委員會ノ
答申ニ基イテ、最高販賣價格ヲ設置シテ
炭價ノ騰勢ヲ抑止シタノデアル、斯ウ云フ
答申ニ基マシタ、其ノ他ハ溫泉場ノ湧出
ニ減少ヲ來シタル場合ノ損害、或ハ國家ガ
鑛業權者タル場合ニ供託ノ義務ナキコトニ
關スル等ノ質疑ガアリマシタガ、省略致シ
マス、以上ヲ以チマンテ質疑ヲ終リマシテ
討論ニ入りマシタ、一委員ヨリ調停ニ關シ、
此ノ問題ハ特ニ技術的ノ權威ヲ要スルノデ
アルカラ、特ニ人選ノ甚ダ困難ナルコトヲ
指摘セラレ、慎重ナル考慮ヲ拂ハレタイト
ノ希望ヲ申サレテ、贊成ノ意見ヲ開陳サレ
タノデアリマス、又他ノ二三ノ委員ヨリモ
同様ノ希望ガアリ贊意ヲ表サレマシタ、討
論ヲ終リマシテ採決ニ入りマシタ、採決ノ
結果全會一致可決ニ確定致シマシタ、以上
御報告申上ゲマス
○議長 伯爵松平頼壽君 別ニ御發言モナ
ケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第一
讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ
メマス
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長 伯爵松平頼壽君 御異議ナイト認
讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセヌカ
メマス
○議長 伯爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通り御異議ゴザイマセヌカ
メマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
会ヲ閉カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第二十一、
青年學校教育費國庫補助法案、政府提出、
衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、
委員長候爵德川義親君

青年學校教育費國庫補助法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和十四年三月十五日

委員長 侯爵徳川 義親

貴族院議長伯爵松平頼壽君

(侯爵徳川義親君演壇ニ登ル)

○侯爵徳川義親君 青年學校教育費國庫補助法案ノ特別委員會ノ經過及結果ヲ御報告

致シマス、本法案ハ青年學校ノ教育ヲ義務化致シマスルニ付キマシテ、其ノ發達ヲ助成スルト共ニ、一方ニハ地方財政ノ負擔ヲ輕減スル爲ニ、國庫ヨリ青年學校ノ教員俸給ニ對シテ、市町村ニ補助ヲナサムトスルモノデアリマス、青年學校ノ義務制ハ、十二歳ヨリ十九歳迄ノ青年男子ニ致シマシテ、居ラナイ者ハ、青年學校ニ就學セシムル義務アリト致スモノデアリマス、之ガ實施ハ昭和十四年度小學校ヲ出ヅル者カラ始マシテ、昭和二十年迄ニ完成セムトスルモノゴザイマスカラ、從來ノ教員ト合セマシテ、本年度新タニ増加セムトスル其ノ俸給ノ約三割、總金額ニ致シマシテ四百三十萬圓ヲ國庫ヨリ補助セムトスルモノデゴザイマス、本法案ニハ關係ハゴザイマスケレドモ、此ノ外ニハ就學獎勵費十萬圓、教員養成施設ニ對シテ三十萬圓ノ補助ヲ計上致シテ居リマス、而シテ此ノ補助額ト云フモノハ、來年度カラ就學青年ノ增加シト共ニ、補助額モ次第ニ増加セシムト云フノデゴザイマス、此ノ法案ノ直接ノ審議ハ

極メテ簡單デゴザイマシタケレドモ、此ノ

法案ノ提出ヲ必要ナラシメタ青年學校ノ義務制ニ對シテ、多ク疑義ガアツクノデ質問ガ多カツタノデゴザイマス、其ノ主ナルモノヲ二三申上ゲマスルト、第一ニ、青年教育ノ義務制ハ劃期的ノ教育刷新デアツテ、國民ニ重大ナル關係ガアル、國民ニ就學

ノ義務ヲ負ハシムル上ニ、更ニ經濟上ノ負擔ヲナサシムルモノデアルカラ、是ハ勅令ノ規定ニ依ラズシテ法律ヲ以テ規定スルノガ至當デナイデアラウカ、立法協

議ノ手續ヲ以テスルノガ國民ニ眞ニ徹底セシムルモノデハナイカト云フ質問ガ

ゴザイマシタ、第二ハ、義務制ガ定メラレマシテモ、出席率ガ惡ケレバ何ノ效果モナイ、之ニ對シテ政府ハ適當ナル對策アリヤ否ヤ、第三ハ、唯サヘ教員不足ノ場合ニ、專任教員ヲ得ルト云フコトハ非常ニ困難デアル、從ツテ小學校ノ教員ヲ以テ兼任セシムルノデアルガ、此ノ爲ニ教員ノ過勞ニナツテ満足ナ教育ガ出来ナイ處ガナイグラウカ、第四ハ、市町村ハ多ク財政困難ヲ極メテ居リマス今日、此ノ補助金ヲ他ノ土木費ノ如キモノニ流用スル虞ハナイノデアラウカ、之ヲ防護爲ニ特別會計トスル方ガ宜シイノデハナイカト云フノデゴザイマス、第五ハ、政府當局ノ説明ニ依リマスト、

○議長(伯爵松平頼壽君) 別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマズ

○議長(伯爵松平頼壽君) 別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマズ

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平頼壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマズ

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第一讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通り

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第一讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通り

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマズ

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 次會ノ議事日程ヲ決定次第臺報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマズ

○議長(伯爵松平頼壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通り御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(伯爵松平頼壽君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

